

町田市立学校の適正規模・適正配置に関する
アンケート調査（補充調査）報告書

2019年10月

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会

町田市立学校の適正規模・適正配置に関する
アンケート調査（補充調査）報告書

町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査（補充調査）報告書

目次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収率	1

第2章 アンケート回答

1. 回答者の属性	2
2. 設問	3
(1) 標準を上回る学級数の学校運営上の課題（小学校）	3
(2) 標準を上回る学級数の学校運営上の課題（中学校）	6
(3) 最も影響の大きいと思う課題（小学校）	9
(4) 最も影響の大きいと思う課題（中学校）	10
(5) 最も影響の大きいと思う課題の影響が出る学級数（小学校）	11
(6) 最も影響の大きいと思う課題の影響が出る学級数（中学校）	14
(7) 適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）（小学校）	17
(8) 適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）（中学校）	18

第3章 自由記述回答

1. 最も影響の大きいと思う課題の影響が出る学級数を選んだ理由（小学校）	19
2. 最も影響の大きいと思う課題の影響が出る学級数を選んだ理由（中学校）	24
3. 標準を上回る学級数の学校運営上の課題の対策（小学校）	26
4. 標準を上回る学級数の学校運営上の課題の対策（中学校）	38
5. 標準を上回る学級数の学校運営上の課題と対策（その他）（小学校）	43
6. 標準を上回る学級数の学校運営上の課題と対策（その他）（中学校）	45
7. 適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）を選んだ理由（小学校）	46
8. 適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）を選んだ理由（中学校）	49

（参考）

町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査） 質問紙	52
-------------------------------------	----

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

適正規模及び適正配置を審議するうえで必要な事項のうち、2019年6月に実施したアンケート調査結果を補充する必要がある事項について追加で調査し、教員の意識を把握すること

2. 調査方法

調査種別	調査対象	調査方法	調査実施期間
教員 ※	町田市立小・中学校の校長、副校長	Web アンケートによる調査 を実施	2019年9月20日 ～10月1日

※アンケート調査名「町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査）」

3. 回収率

配布数	回収数	回収率
124	114	91.9%

報告書の見方

- (1) 調査結果について、構成比を表すグラフまたは集計表の場合、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、数値の合計が100.0パーセントにならない場合があります。
- (2) 複数選択が可能な設問の調査結果を集計したグラフまたは集計表の場合、全ての回答数を合計すると回答者数を超える場合があります。
- (3) 本文やグラフ・数表の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化しています。

第2章 アンケート回答

1. 回答者の属性

(1) 勤務している学校の種類

種類	回答数
小学校	78
中学校	36
計	114

(2) 役職

小学校

役職名	回答数
校長	40
副校長	38
計	78

中学校

役職名	回答数
校長	17
副校長	19
計	36

(3) 法令^{※1}で定める標準学級数を上回る（1校あたりの学級数が19学級以上）の学校で勤務した経験の有無

小学校

標準の学級数を上回る学校での勤務経験	回答者数
1校あたり19学級以上の学校で勤務した経験がある	62
1校あたり25学級 ^{※2} 以上の学校で勤務した経験がある	31
1校あたり19学級以上の学校で勤務した経験はない	16
計	78

中学校

標準の学級数を上回る学校での勤務経験	回答者数
1校あたり19学級以上の学校で勤務した経験がある	26
1校あたり25学級 ^{※2} 以上の学校で勤務した経験がある	9
1校あたり19学級以上の学校で勤務した経験はない	10
計	36

※1 学校教育法施行規則

第41条 小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

第79条 第41条から第49条まで、第50条第2項、第54条から第69条までの規定は、中学校に準用する。

※2 文部科学省が定める大規模校

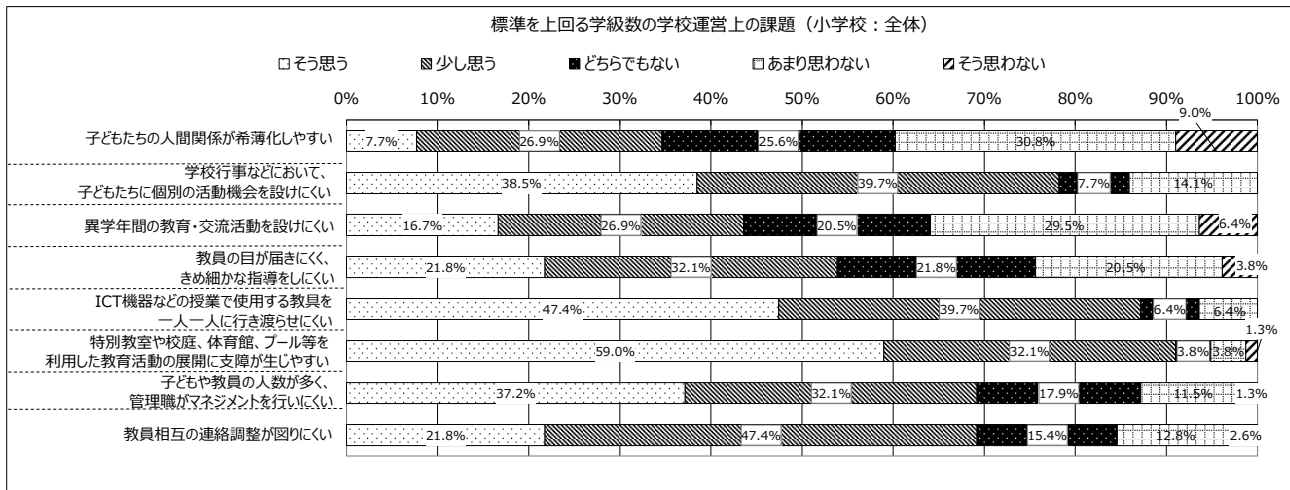
2. 設問

設問 標準を上回る学級数の学校運営上の課題について、あなたの考えをお聞かせください。

(1) 標準を上回る学級数の学校運営上の課題（小学校）

※学校運営上の課題に対する対策及び掲載している調査項目以外の学校運営上の課題と対策は、「第3章 自由記述回答」のP26～37、P43～44に掲載しています。

① 標準を上回る学級数の学校運営上の課題（小学校：全体）

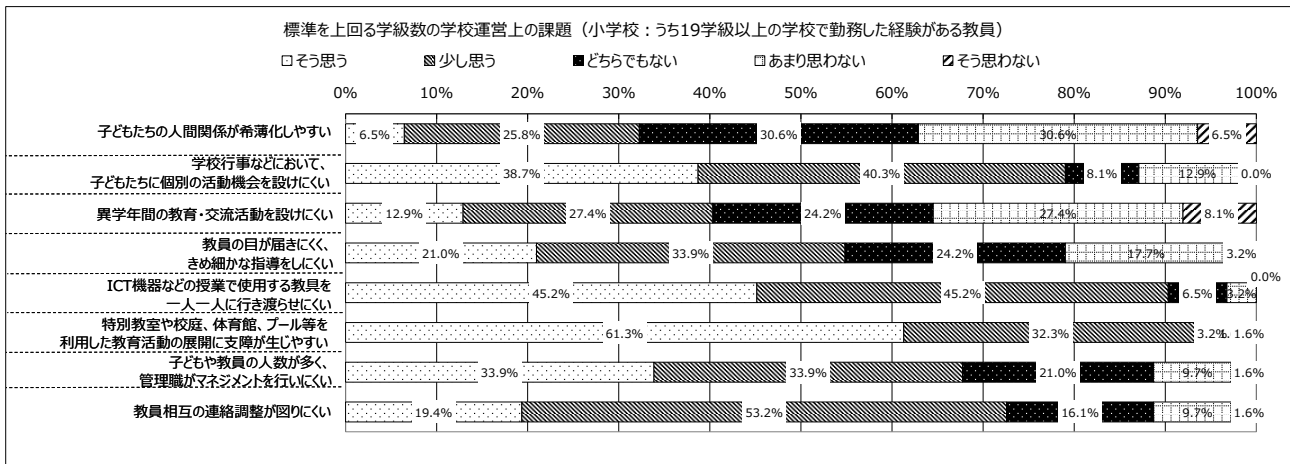


	(1)		(2)		(3)		(4)	
	子どもたちの人間関係が希薄化しやすい		学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい		異学年間の教育・交流活動を設けにくい		教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	6	7.7%	30	38.5%	13	16.7%	17	21.8%
少し思う	21	26.9%	31	39.7%	21	26.9%	25	32.1%
どちらでもない	20	25.6%	6	7.7%	16	20.5%	17	21.8%
あまり思わない	24	30.8%	11	14.1%	23	29.5%	16	20.5%
そう思わない	7	9.0%	0	0.0%	5	6.4%	3	3.8%
計	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%

	(5)		(6)		(7)		(8)	
	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい		特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい		子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		教員相互の連絡調整が図りにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	37	47.4%	46	59.0%	29	37.2%	17	21.8%
少し思う	31	39.7%	25	32.1%	25	32.1%	37	47.4%
どちらでもない	5	6.4%	3	3.8%	14	17.9%	12	15.4%
あまり思わない	5	6.4%	3	3.8%	9	11.5%	10	12.8%
そう思わない	0	0.0%	1	1.3%	1	1.3%	2	2.6%
計	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%

②標準を上回る学級数の学校運営上の課題

(小学校：うち19学級以上の学校で勤務した経験がある教員)

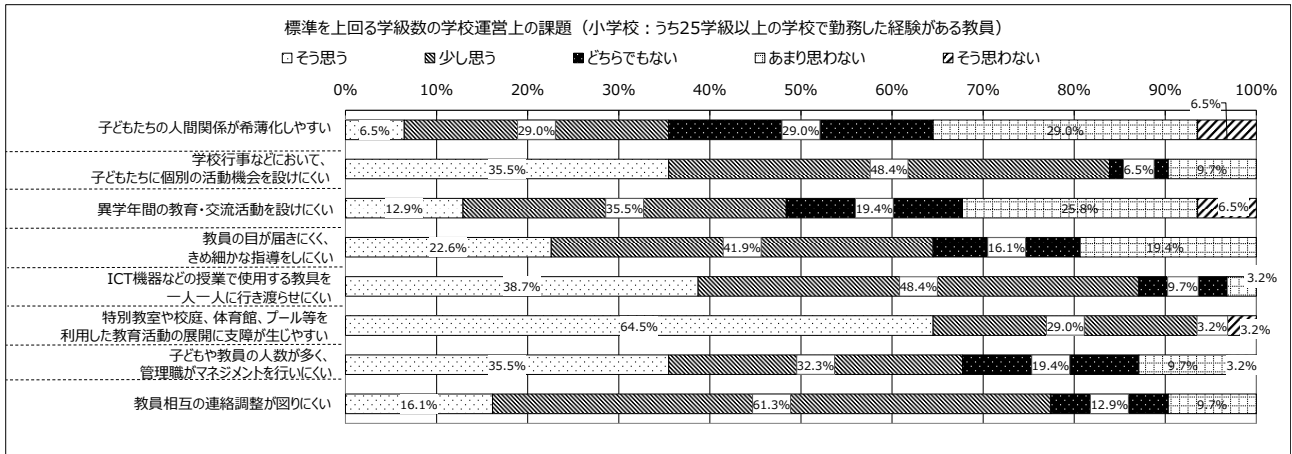


	(1)		(2)		(3)		(4)	
	子どもたちの人間関係が希薄化しやすい		学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい		異学年間の教育・交流活動を設けにくい		教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	4	6.5%	24	38.7%	8	12.9%	13	21.0%
少し思う	16	25.8%	25	40.3%	17	27.4%	21	33.9%
どちらでもない	19	30.6%	5	8.1%	15	24.2%	15	24.2%
あまり思わない	19	30.6%	8	12.9%	17	27.4%	11	17.7%
そう思わない	4	6.5%	0	0.0%	5	8.1%	2	3.2%
	62	100.0%	62	100.0%	62	100.0%	62	100.0%

	(5)		(6)		(7)		(8)	
	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい		特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい		子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		教員相互の連絡調整が図りにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	28	45.2%	38	61.3%	21	33.9%	12	19.4%
少し思う	28	45.2%	20	32.3%	21	33.9%	33	53.2%
どちらでもない	4	6.5%	2	3.2%	13	21.0%	10	16.1%
あまり思わない	2	3.2%	1	1.6%	6	9.7%	6	9.7%
そう思わない	0	0.0%	1	1.6%	1	1.6%	1	1.6%
	62	100.0%	62	100.0%	62	100.0%	62	100.0%

③標準を上回る学級数の学校運営上の課題

(小学校：うち25学級以上の学校で勤務した経験がある教員)



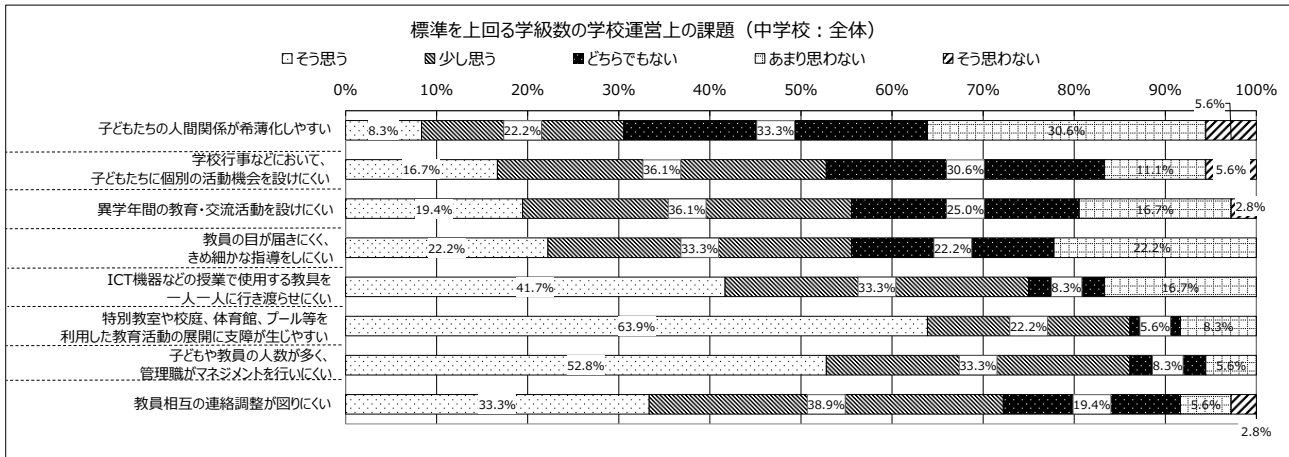
	(1)		(2)		(3)		(4)	
	子どもたちの人間関係が希薄化しやすい		学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい		異学年間の教育・交流活動を設けにくい		教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	2	6.5%	11	35.5%	4	12.9%	7	22.6%
少し思う	9	29.0%	15	48.4%	11	35.5%	13	41.9%
どちらでもない	9	29.0%	2	6.5%	6	19.4%	5	16.1%
あまり思わない	9	29.0%	3	9.7%	8	25.8%	6	19.4%
そう思わない	2	6.5%	0	0.0%	2	6.5%	0	0.0%
	31	100.0%	31	100.0%	31	100.0%	31	100.0%

	(5)		(6)		(7)		(8)	
	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい		特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい		子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		教員相互の連絡調整が図りにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	12	38.7%	20	64.5%	11	35.5%	5	16.1%
少し思う	15	48.4%	9	29.0%	10	32.3%	19	61.3%
どちらでもない	3	9.7%	1	3.2%	6	19.4%	4	12.9%
あまり思わない	1	3.2%	0	0.0%	3	9.7%	3	9.7%
そう思わない	0	0.0%	1	3.2%	1	3.2%	0	0.0%
	31	100.0%	31	100.0%	31	100.0%	31	100.0%

(2) 標準を上回る学級数の学校運営上の課題（中学校）

※学校運営上の課題に対する対策及び掲載している調査項目以外の学校運営上の課題と対策は、「第3章 自由記述回答」のP38～42、P45に掲載しています。

①標準を上回る学級数の学校運営上の課題（中学校：全体）

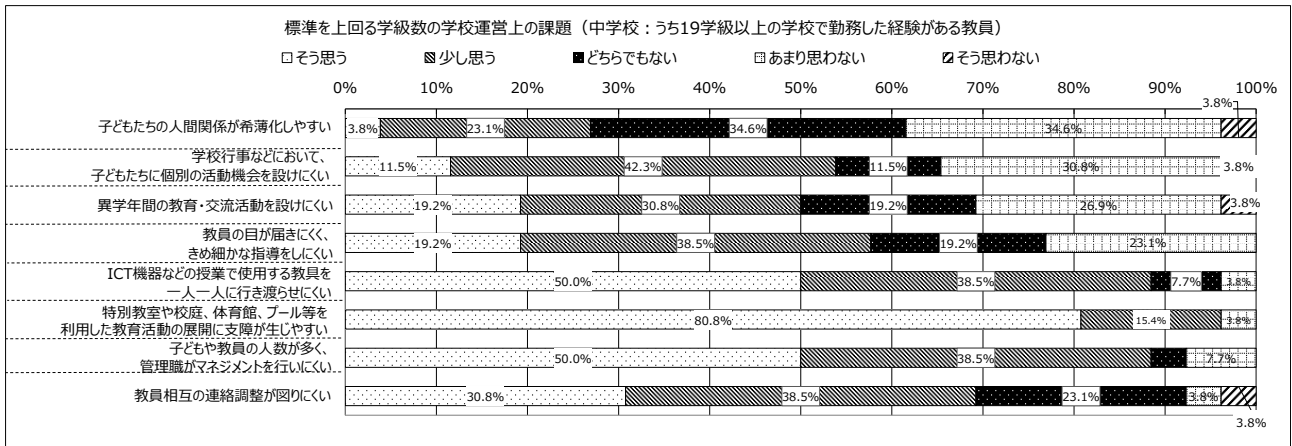


	(1)		(2)		(3)		(4)	
	子どもたちの人間関係が希薄化しやすい		学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい		異学年間の教育・交流活動を設けにくい		教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	3	8.3%	6	16.7%	7	19.4%	8	22.2%
少し思う	8	22.2%	13	36.1%	13	36.1%	12	33.3%
どちらでもない	12	33.3%	11	30.6%	9	25.0%	8	22.2%
あまり思わない	11	30.6%	4	11.1%	6	16.7%	8	22.2%
そう思わない	2	5.6%	2	5.6%	1	2.8%	0	0.0%
計	36	100.0%	36	100.0%	36	100.0%	36	100.0%

	(5)		(6)		(7)		(8)	
	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい		特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい		子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		教員相互の連絡調整が図りにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	15	41.7%	23	63.9%	19	52.8%	12	33.3%
少し思う	12	33.3%	8	22.2%	12	33.3%	14	38.9%
どちらでもない	3	8.3%	2	5.6%	3	8.3%	7	19.4%
あまり思わない	6	16.7%	3	8.3%	2	5.6%	2	5.6%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%
計	36	100.0%	36	100.0%	36	100.0%	36	100.0%

②標準を上回る学級数の学校運営上の課題

(中学校：うち19学級以上の学校で勤務した経験がある教員)

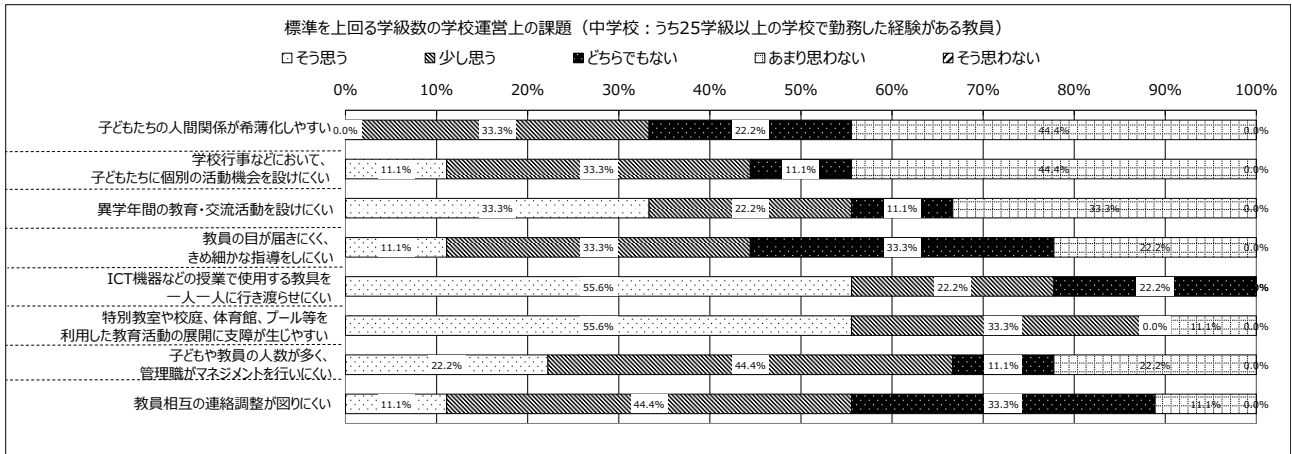


	(1)		(2)		(3)		(4)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	1	3.8%	3	11.5%	5	19.2%	5	19.2%
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	6	23.1%	11	42.3%	8	30.8%	10	38.5%
異学年間の教育・交流活動を設けにくい	9	34.6%	3	11.5%	5	19.2%	5	19.2%
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	9	34.6%	8	30.8%	7	26.9%	6	23.1%
そう思わない	1	3.8%	1	3.8%	1	3.8%	0	0.0%
計	26	100.0%	26	100.0%	26	100.0%	26	100.0%

	(5)		(6)		(7)		(8)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
ICT機器などの授業で使用する教員を一人一人に行き渡らせにくい	13	50.0%	21	80.8%	13	50.0%	8	30.8%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	10	38.5%	4	15.4%	10	38.5%	10	38.5%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	2	7.7%	0	0.0%	1	3.8%	6	23.1%
教員相互の連絡調整が図りにくい	1	3.8%	1	3.8%	2	7.7%	1	3.8%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%
計	26	100.0%	26	100.0%	26	100.0%	26	100.0%

③標準を上回る学級数の学校運営上の課題

(中学校：うち 25 学級以上の学校で勤務した経験がある教員)

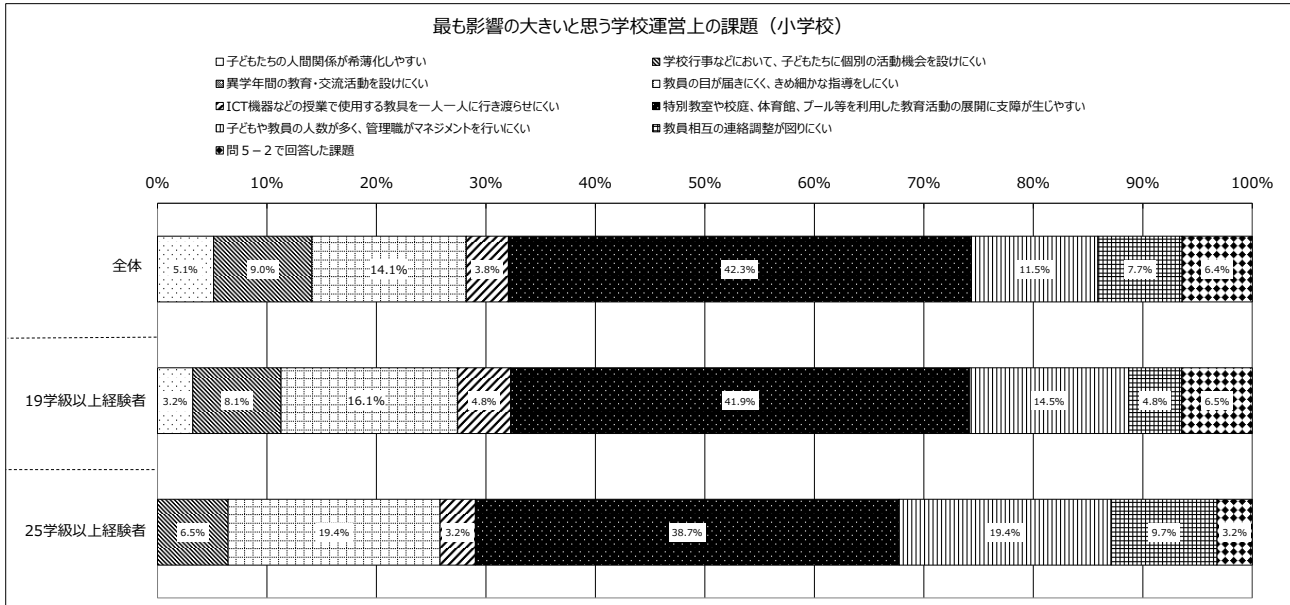


	(1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい		(2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい		(3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい		(4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	0	0.0%	1	11.1%	3	33.3%	1	11.1%
少し思う	3	33.3%	3	33.3%	2	22.2%	3	33.3%
どちらでもない	2	22.2%	1	11.1%	1	11.1%	3	33.3%
あまり思わない	4	44.4%	4	44.4%	3	33.3%	2	22.2%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	9	100.0%	9	100.0%	9	100.0%	9	100.0%

	(5) ICT機器などの授業で使用する教員を一人一人に行き渡らせにくい		(6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい		(7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい		(8) 教員相互の連絡調整が図りにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
そう思う	5	55.6%	5	55.6%	2	22.2%	1	11.1%
少し思う	2	22.2%	3	33.3%	4	44.4%	4	44.4%
どちらでもない	2	22.2%	0	0.0%	1	11.1%	3	33.3%
あまり思わない	0	0.0%	1	11.1%	2	22.2%	1	11.1%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	9	100.0%	9	100.0%	9	100.0%	9	100.0%

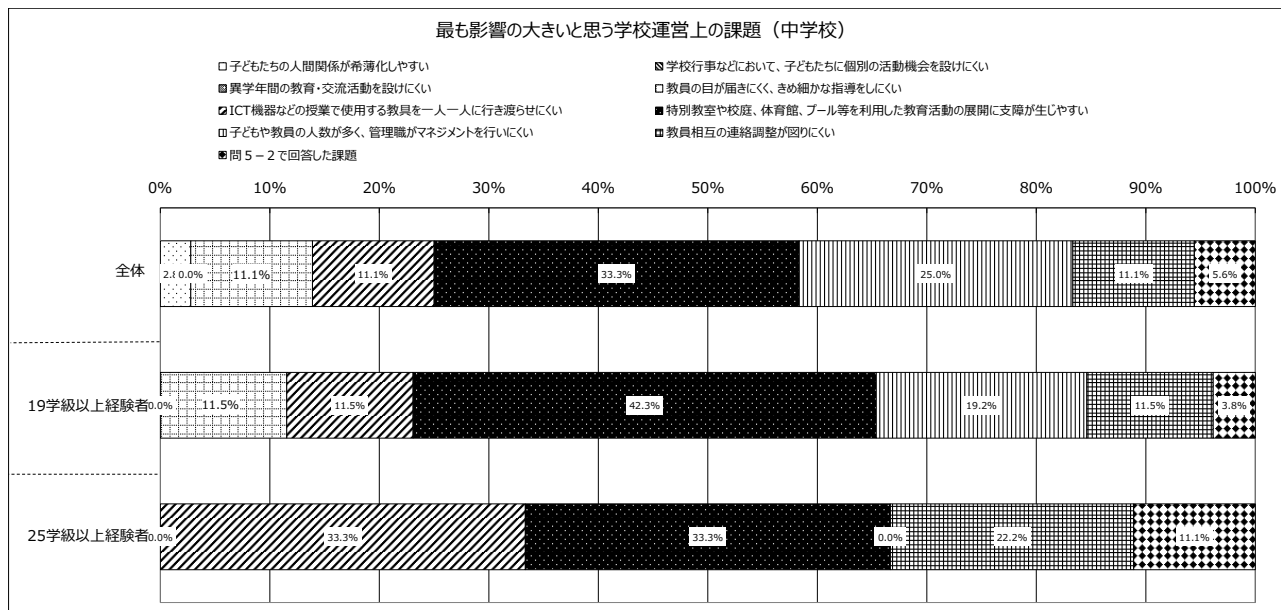
設問標準を上回る学級数の学校において、最も影響の大きいと思う学校運営上の課題は何だと思いますか。

(3) 標準を上回る学級数の学校における最も影響の大きいと思う学校運営上の課題
(小学校)



	全体		経験規模			
	回答数	%	19学級以上経験者		25学級以上経験者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	4	5.1%	2	3.2%	0	0.0%
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	7	9.0%	5	8.1%	2	6.5%
異学年間の教育・交流活動を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	11	14.1%	10	16.1%	6	19.4%
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	3	3.8%	3	4.8%	1	3.2%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	33	42.3%	26	41.9%	12	38.7%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	9	11.5%	9	14.5%	6	19.4%
教員相互の連絡調整が回りにくい	6	7.7%	3	4.8%	3	9.7%
問5-2で回答した課題	5	6.4%	4	6.5%	1	3.2%
計	78	100.0%	62	100.0%	31	100.0%

(4) 標準を上回る学級数の学校における最も影響の大きいと思う学校運営上の課題 (中学校)



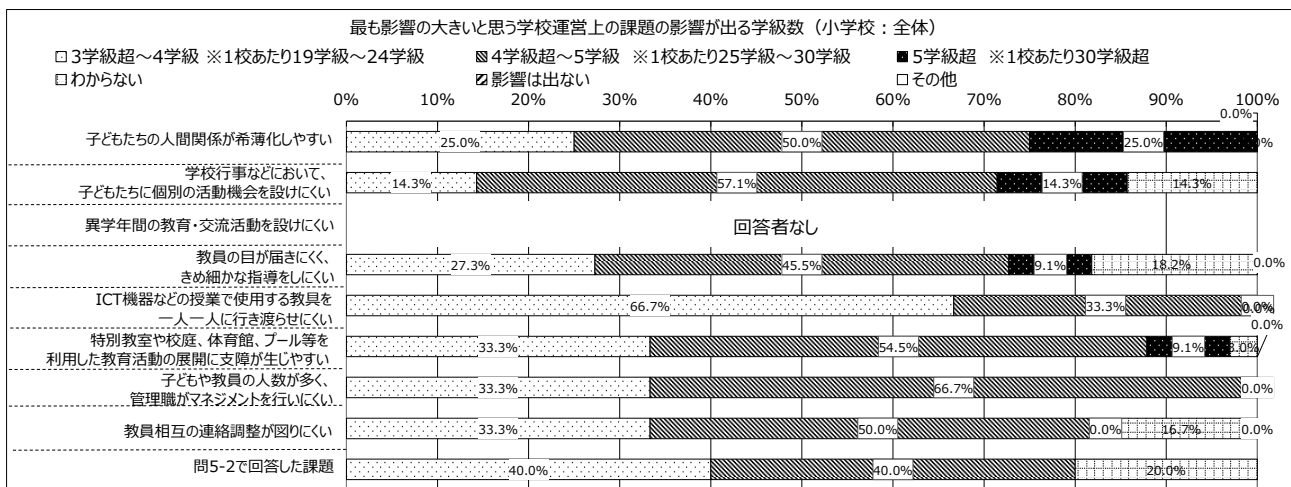
	全体		経験規模			
	回答数	%	19学級以上経験者		25学級以上経験者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	1	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
異学年間の教育・交流活動を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	4	11.1%	3	11.5%	0	0.0%
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	4	11.1%	3	11.5%	3	33.3%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	12	33.3%	11	42.3%	3	33.3%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	9	25.0%	5	19.2%	0	0.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	4	11.1%	3	11.5%	2	22.2%
問5-2で回答した課題	2	5.6%	1	3.8%	1	11.1%
計	36	100.0%	26	100.0%	9	100.0%

設問 標準を上回る学級数の学校において、最も影響の大きいと思う学校運営上の課題は、どれくらいの学級数から影響が出ると思いますか。

(5) 標準を上回る学級数の学校において、最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数（小学校）

※最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数を選択した理由は、「第3章 自由記述回答」のP19～23に掲載しています。

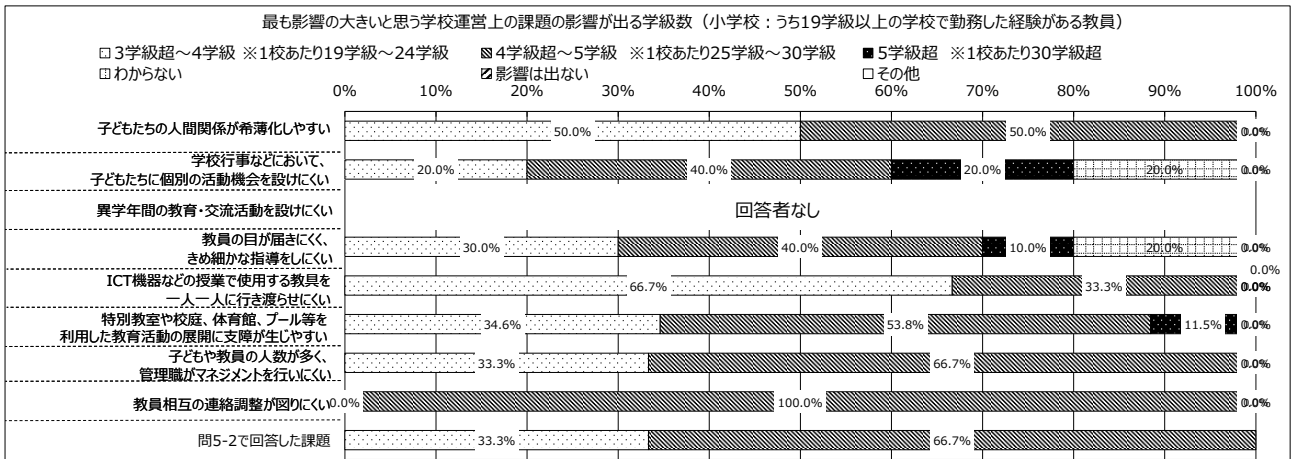
①最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数（小学校：全体）



	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
3学級超～4学級 ※1校あたり19学級～24学級	1	25.0%	1	14.3%	0	0.0%	3	27.3%	2	66.7%
4学級超～5学級 ※1校あたり25学級～30学級	2	50.0%	4	57.1%	0	0.0%	5	45.5%	1	33.3%
5学級超 ※1校あたり30学級超	1	25.0%	1	14.3%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	2	18.2%	0	0.0%
影響は出ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	4	100.0%	7	100.0%	0	0.0%	11	100.0%	3	100.0%

	(6)		(7)		(8)		(9)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
3学級超～4学級 ※1校あたり19学級～24学級	11	33.3%	3	33.3%	2	33.3%	2	40.0%
4学級超～5学級 ※1校あたり25学級～30学級	18	54.5%	6	66.7%	3	50.0%	2	40.0%
5学級超 ※1校あたり30学級超	3	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	1	3.0%	0	0.0%	1	16.7%	1	20.0%
影響は出ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	33	100.0%	9	100.0%	6	100.0%	5	100.0%

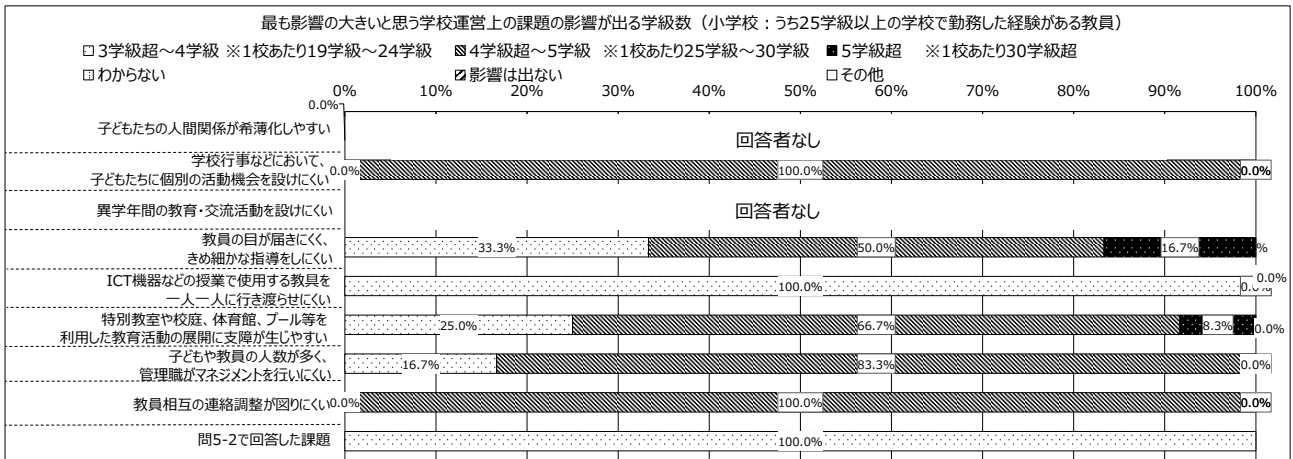
②最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数
 (小学校：うち19学級以上の学校で勤務した経験がある教員)



	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	1	50.0%	1	20.0%	0	0.0%	3	30.0%	2	66.7%
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	1	50.0%	2	40.0%	0	0.0%	4	40.0%	1	33.3%
異学年間の教育・交流活動を設けにくい	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしいにくい	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	2	20.0%	0	0.0%
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントをしいにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	2	100.0%	5	100.0%	0	0.0%	10	100.0%	3	100.0%

	(6)		(7)		(8)		(9)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	9	34.6%	3	33.3%	0	0.0%	1	33.3%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントをしいにくい	14	53.8%	6	66.7%	3	100.0%	2	66.7%
教員相互の連絡調整が図りにくい	3	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
影響は出ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	26	100.0%	9	100.0%	3	100.0%	3	100.0%

③最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数
 (小学校：うち25学級以上の学校で勤務した経験がある教員)



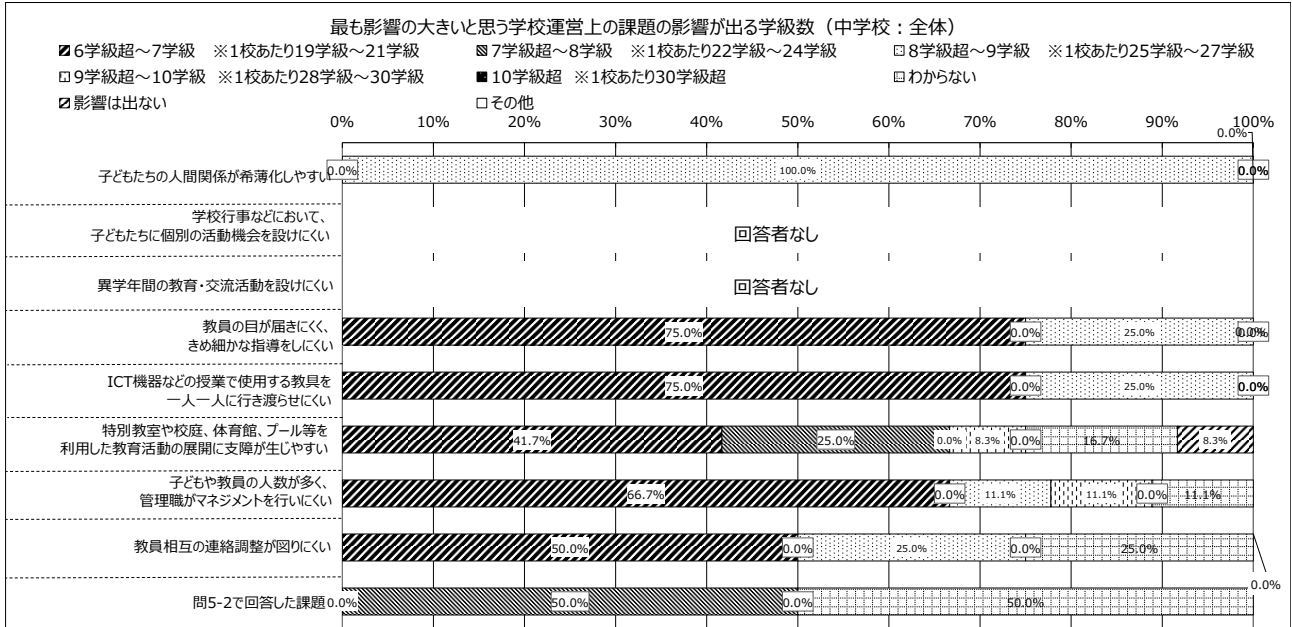
	(1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい		(2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい		(3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい		(4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をにくい		(5) ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
3学級超～4学級 ※1校あたり19学級～24学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	1	100.0%
4学級超～5学級 ※1校あたり25学級～30学級	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	3	50.0%	0	0.0%
5学級超 ※1校あたり30学級超	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
影響は出ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	6	100.0%	1	100.0%

	(6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい		(7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントをにくい		(8) 教員相互の連絡調整が図りにくい		(9) 問5-2で回答した課題	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
3学級超～4学級 ※1校あたり19学級～24学級	3	25.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	100.0%
4学級超～5学級 ※1校あたり25学級～30学級	8	66.7%	5	83.3%	3	100.0%	0	0.0%
5学級超 ※1校あたり30学級超	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
影響は出ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	12	100.0%	6	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

(6) 標準を上回る学級数の学校において、最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数(中学校)

※最も影響の大きいと思う課題の影響が出る学級数を選択した理由は、「第3章 自由記述回答」のP24～25に掲載しています。

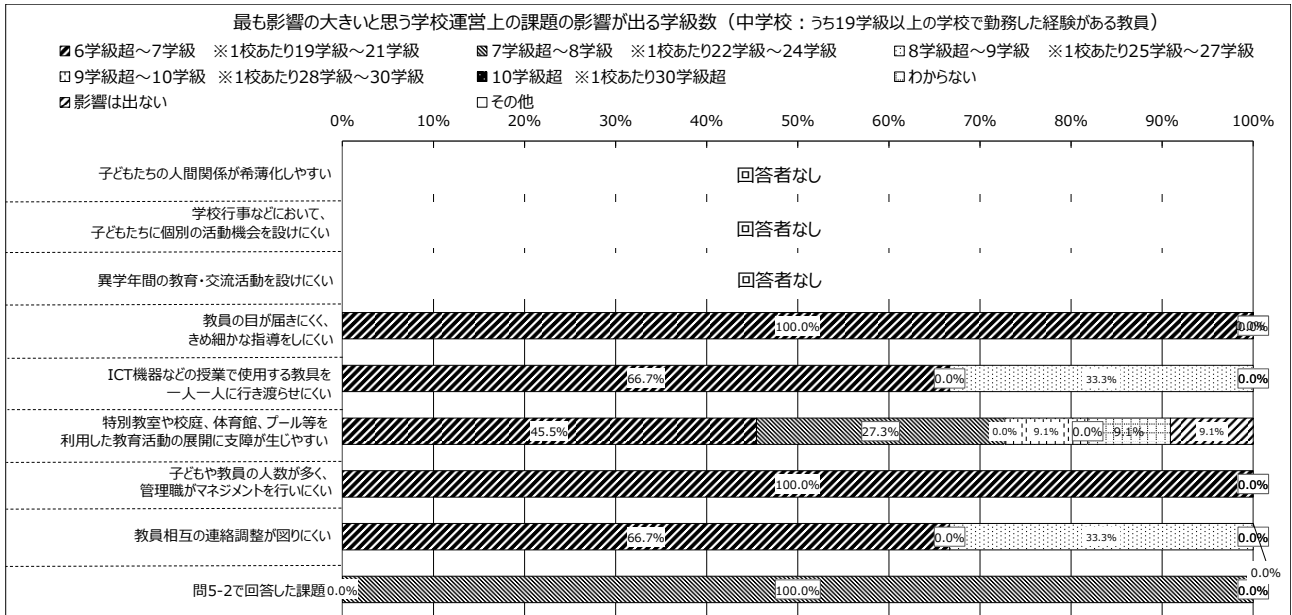
①最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数(中学校：全体)



	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	3	75.0%
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
異学年間の教育・交流活動を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	4	100.0%

	(6)		(7)		(8)		(9)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	5	41.7%	6	66.7%	2	50.0%	0	0.0%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	3	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	0	0.0%	1	11.1%	1	25.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	1	8.3%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	2	16.7%	1	11.1%	1	25.0%	1	50.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	12	100.0%	9	100.0%	4	100.0%	2	100.0%

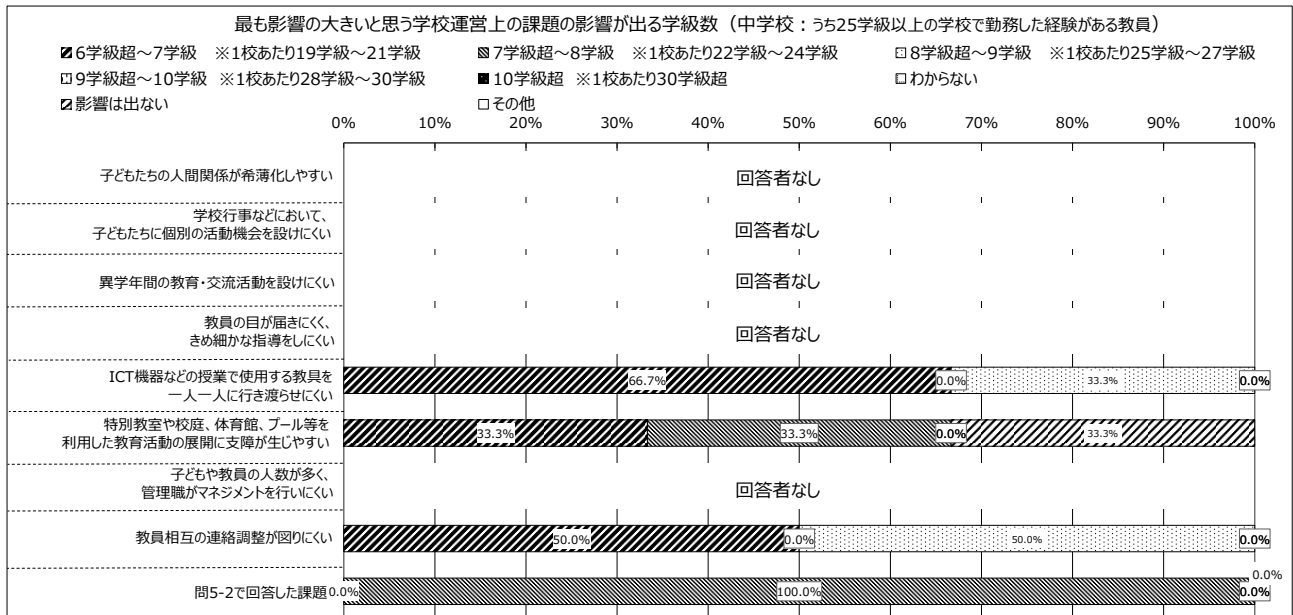
②最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数
 (中学校：うち19学級以上の学校で勤務した経験がある教員)



	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
6学級超～7学級 ※1校あたり19学級～21学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%	2	66.7%
7学級超～8学級 ※1校あたり22学級～24学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8学級超～9学級 ※1校あたり25学級～27学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
9学級超～10学級 ※1校あたり28学級～30学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10学級超 ※1校あたり30学級超	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
影響は出ない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%	3	100.0%

	(6)		(7)		(8)		(9)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
6学級超～7学級 ※1校あたり19学級～21学級	5	45.5%	5	100.0%	2	66.7%	0	0.0%
7学級超～8学級 ※1校あたり22学級～24学級	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
8学級超～9学級 ※1校あたり25学級～27学級	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
9学級超～10学級 ※1校あたり28学級～30学級	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10学級超 ※1校あたり30学級超	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
影響は出ない	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	11	100.0%	5	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

③最も影響の大きいと思う学校運営上の課題の影響が出る学級数
 (中学校：うち25学級以上の学校で勤務した経験がある教員)



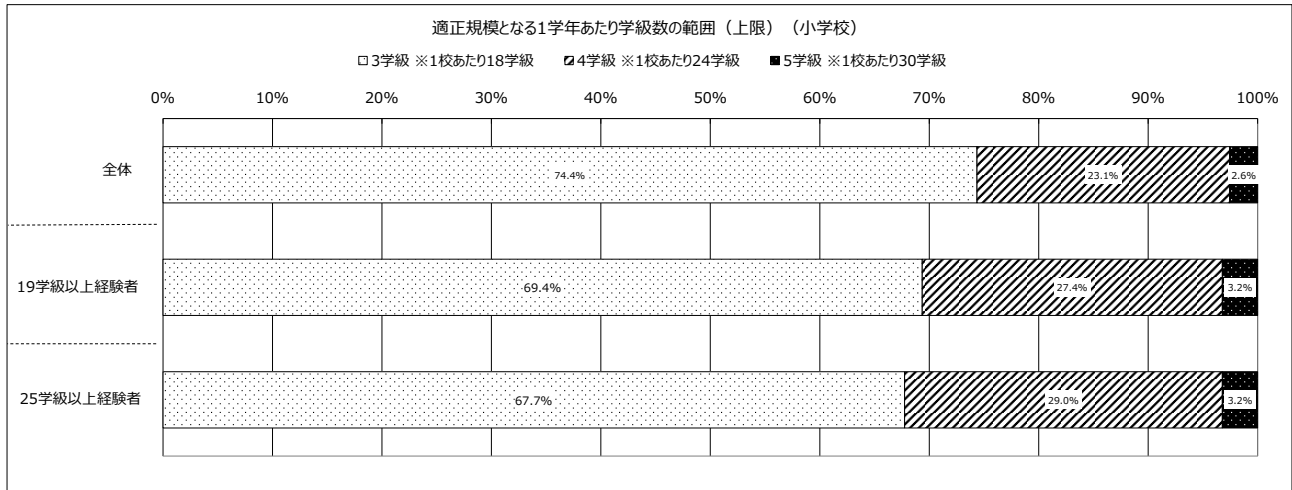
	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
異学年間の教育・交流活動を設けにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%

	(6)		(7)		(8)		(9)	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	1	33.3%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
教員相互の連絡調整が図りにくい	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%
問5-2で回答した課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6学級超～7学級 ※1校あたり19学級～21学級	1	33.3%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%
7学級超～8学級 ※1校あたり22学級～24学級	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
8学級超～9学級 ※1校あたり25学級～27学級	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%
9学級超～10学級 ※1校あたり28学級～30学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10学級超 ※1校あたり30学級超	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
影響は出ない	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	3	100.0%	0	0.0%	2	100.0%	1	100.0%

設問 今後の町田市立小学校において、「適正規模となる 1 学年あたり学級数の範囲（上限）」は、何学級までだと思いますか。

※1 学年あたり学級数の範囲（上限）の学級数を選択した理由は、「第3章 自由記述回答」のP46～48に掲載しています。

(7) 適正規模となる 1 学年あたり学級数の範囲（上限）（小学校）

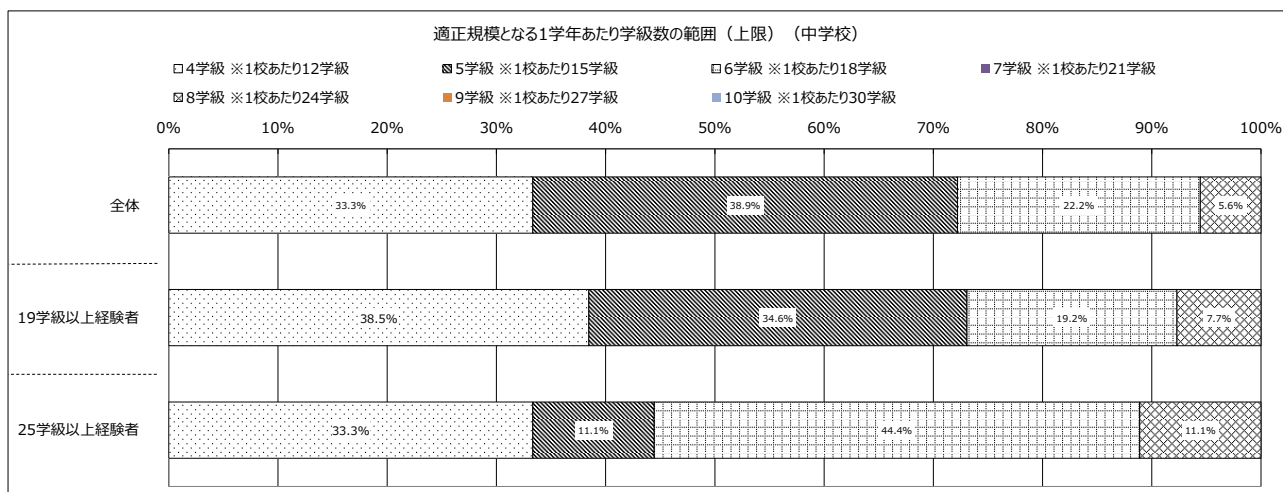


	全体		経験規模			
	回答数	%	19学級以上経験者		25学級以上経験者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
3学級 ※1校あたり18学級	58	74.4%	43	69.4%	21	67.7%
4学級 ※1校あたり24学級	18	23.1%	17	27.4%	9	29.0%
5学級 ※1校あたり30学級	2	2.6%	2	3.2%	1	3.2%
計	78	100.0%	62	100.0%	31	100.0%

設問 今後の町田市立中学校において、「適正規模となる 1 学年あたり学級数の範囲（上限）」は、何学級までだと思いますか。

※1 学年あたり学級数の範囲（上限）の学級数を選択した理由は、「第3章 自由記述回答」のP49～50に掲載しています。

(8) 適正規模となる 1 学年あたり学級数の範囲（上限）（中学校）



	全体		経験規模			
	回答数	%	19学級以上経験者		25学級以上経験者	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
4学級 ※1校あたり12学級	12	33.3%	10	38.5%	3	33.3%
5学級 ※1校あたり15学級	14	38.9%	9	34.6%	1	11.1%
6学級 ※1校あたり18学級	8	22.2%	5	19.2%	4	44.4%
7学級 ※1校あたり21学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8学級 ※1校あたり24学級	2	5.6%	2	7.7%	1	11.1%
9学級 ※1校あたり27学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10学級 ※1校あたり30学級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	36	100.0%	26	100.0%	9	100.0%

第3章 自由記述回答

本章には、アンケート調査結果のうち、自由記述で回答いただいた内容を掲載しています。

小学校 (総件数:78件)			【1】標準を上回る学級数の学校において最も影響が出ると思う学校運営上の課題とその課題の影響が出る学級数及びその理由	
分類			回答	
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい (5件)	3学級超～4学級 (1件)	情報共有 (1件)	3学級を越えてくると、教員間の連絡調整が密になりにくくなるから。	1
	4学級超～5学級 (3件)	情報共有 (1件)	学年会でも意思疎通を図るのが難しいから。	2
		人間関係 (1件)	人間関係において様々な問題が生じやすい。	3
		経験等 (1件)	4学級を越えると出始めているなど感じているから。	4
	5学級超 (1件)	教育指導 (1件)	各学級が40人となった際200人で1学年では指導が行き届かないと思う。	5
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい (11件)	3学級超～4学級 (3件)	教育指導 (1件)	今の児童は、学習面でも生活面でも細かい配慮が必要だから	6
		情報共有 (1件)	教員が集合してできる会議や、情報を共有するシステムが成立しにくい。	7
		経験等 (1件)	現在18学級の学校に勤務していますが、児童の顔や名前を把握するのに悪戦苦闘しています。学年間で児童を把握するにも100人ぐらいがギリギリかと、経験上感じるからです。	8
	4学級超～5学級 (5件)	学校経営 (2件)	現在各学年が4学級ですが、授業観察をしていると、これが限界と感じます。	9
			実際に26学級、28学級を体験したことがあるが、危機管理上も限界を超えているため。	10
		経験等 (2件)	以前自分が勤務した経験があり、学年の児童の把握がしづらかった。	11
			実体験より	12
	児童・生徒数 (1件)	人数が多いのが一番の問題。	13	
	5学級超 (1件)	学校経営 (1件)	5学級以上だと進ちょく状況を把握しにくい	14
	わからない (2件)	その他 (2件)	学校規模だけで判断できない。	15
中学校勤務の経験しかなく、現在の勤務とことなるので、どちらを回答して良いか分からない。			16	
学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい (7件)	3学級超～4学級 (1件)	児童・生徒数 (1件)	1学年の児童100人を超えると、一人一人の活躍の場を設定するのが困難	17
	4学級超～5学級 (4件)	教育指導 (4件)	学年主任は全体を見切れない。	18
			児童の人数が多いため、教員の目が行き届かないから。	19
			4クラスの連携は難しい	20
			時間割のコマ数の関係	21
	5学級超 (1件)	経験等 (1件)	24クラスで少し制限を感じるから。	22
	わからない (1件)	その他 (1件)	規模に応じて、適切な方法をとることで対応はできると思うから。	23

分類		回答		
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい(3件)	3学級超~4学級(3件)	機器の配備(1件)	PC等の機器はほとどの学校も1学級分しかないの実情。18学級くらいでも頻繁に使うには数がたりていない。	24
		その他(2件)	基本的には1人1台を目指すのではないか?	25
			19	26
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい(33件)	3学級超~4学級(10件)	時間割(8件)	例えば校庭での体育。1学級週2時間。学年4学級。全6学年とすると。 $2 \times 4 \times 6 = 48$ 48枠が必要。校庭体育のできる枠は週27枠。 (月5、火6、水4、木6、金6 計27) 1年~3年が2学級一緒に校庭を利用すると $2 \times 4 \times 3 \div 2 + 2 \times 4 \times 3 = 36$ 36枠必要。それでも不足。 一方、1学年3学級で1年~3年が2学級一緒に校庭を利用するとすると、 $2 \times 3 \times 3 \div 2 + 2 \times 3 \times 3 = 27$ ちょうど27枠でおさまる。	27
			20学級を越えると、固定時間割が組みにくくなり高学年の体育や専科の時間割りに偏りがでてくる。児童の生活リズムを考えると好ましくない。1時間目や6時間目の体育ばかり続いたり、同じ日に専科が何時間も入って担任との関わりがない日もでてくる。	28
			校庭が狭く、体育を2学級同時に実施できなかったから。	29
			校庭を2クラスで分けなければいけないので。	30
			体育の授業で、雨天時体育館を使用できるのは、2クラスまでなので。	31
			特別教室や体育館等の一週間の利用を割り振った固定時間割は、18学級でも ほぼ限界であるため。	32
			学校にもよりますが、施設面で融通の利かなくなり、施設使用計画に弊害が必ず生じてしまう学級数とと感じます。	33
			19学級あった時、校庭を2学級で使っていた。	34
			施設(2件)	校舎の規模、教室数において、もともと18学級を想定した造りになっているため。
		校庭・体育館の広さは限られている。	36	

分類		回答			
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい (33件)	4学級超～5学級 (19件)	時間割 (11件)	・特別教室等を利用した教育活動の時間割編成が困難になる。 ・学年、学校全体を把握することや児童理解、きめ細やかな指導が行き渡らない。 ・校外学習（社会科見学等）の受け入れ先が限られ、2回に分けて実施することもある。	37	
			校庭の物理的な狭さによる、学年合同体育ができない現状。	38	
			体育館、校庭を複数の学級、学年で使用する必要性が出てくる。	39	
			学級数×授業時数で、部屋（各目的に対する部屋が一つである場合）の確保ができなくなる値のため。ただ、6-1を一つに絞られるのは困りました。町田の現状では、むしろ「ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい」が問題ですが、今後機器や教具が増配備されるであろう想定の下で考えました。	40	
			特別教室等を使用するにあたり、調整が困難な状況を経験したため	41	
			4学級までなら2グループに分け、2グループ入れ替えの2展開で済むが、5学級になると、1学級あたりの活動の時間や回数が減り、活動できない時間や回数が多くなる。	42	
			この学級数を超えると、体育、音楽、図工などの割り振りが難しくなります。	43	
			時間割のコマ数から言って、このぐらいから限界が生じる。	44	
			時間割の調整が難しくなる。	45	
			時間割上、組むのが厳しく思われる。	46	
			適当たりの時数が現在の所、最大29時間のため、25学級以上は体育館等の割り当てが厳しくなってくる。	47	
			施設 (4件)	4学級を超える規模を想定して校舎や校庭、体育館が作られていない。練馬などは体育館が町田市の小学校の倍の大きさ（バスケットコート2面）をもつ。	48
				体育館やプール等の施設を使用する時に、1学年3学級程度の学校の児童数でも目一杯であると感じるから。	49
				通常の体育館に入る児童数の限界を超えていると思うから。	50
	教材等を保管する教材室の確保が難しい	51			
	経験等 (1件)	現実 大規模校に勤務している実感として。	52		
	その他 (3件)	1校で25学級を超えると問5の問題点が顕著になり、学級数が多いことのメリットを打ち消してしまうと思われるため。	53		
		校庭で遊ぶ人数が多く安全面の確保や運動会の運営が厳しいのではないかと？	54		
		宿泊行事など施設が限られてしまう。	55		
	5学級超 (3件)	時間割 (2件)	体育館の使用が、すべて割当てられ、移動ができない。校庭の使用面積が限られ、十分に運動できないことがある。	56	
入れ替え可能な時間割を組むのが困難			57		
施設 (1件)	30学級に対応できる規模の学校はあまりないと思うので、急な学級増になった場合に対応しきれなくなると思うから。	58			
わからない (1件)	その他 (1件)	大規模校の経験がないので、わかりません。	59		

分類			回答		
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい(8件)	3学級超～4学級(3件)	経験等(1件)	実際に19学級を超える学校に勤務して課題があると感じたから	60	
		児童・生徒数(1件)	1学年は100人以下が適正だと思う。	61	
		その他(1件)	一学年三学級が最適だと思われるため。それ以上は支障が出る可能性がある	62	
	4学級超～5学級(5件)	学校経営(2件)	1学年が4クラスを超えてしまう(5学級以上)規模になると、相当力のある学年主任でないと統括できなくなり、同一学年でありながら統一されていない指導になりがちである。それは、子供の荒れにつながり、保護者の不信につながる。管理職の立場から言っても、学級数が増えれば増えるほど、教職員に目が届かなくなり指示が徹底しなくなりがちなのは事実。24学級が同じベクトルで指導ができる限度だろうと思う。 この質問は普通学級だけだが、学校には特別支援の学級もあり、管理職のマネジメントはトータルでの教職員数と密接な関係があることは承知しておいてほしいと思った。	63	
			5学級の経験はないが、若い教員が多い中、学校課題や学級の状況が把握しずらく適正規模とは到底いえないだろう。	64	
		経験等(2件)	過去の経験から、そのように思われる。 経験から	65 66	
		教育指導(1件)	3学級規模の学校で教務主任を務めたが、時間割を組むのに支障がでていたため。	67	
		3学級超～4学級(2件)	学校経営(1件)	学校のまとめ、学年経営の視点からも19学級が相応しいと考える。	68
			情報共有(1件)	教師間で共通認識のもと、児童指導にあたる時にどうしても、ズレが生じやすいと考えるから。	69
			4学級超～5学級(3件)	教育指導(1件)	学年主任として4学級をまとめることが精一杯の状況でした。4学級のうち学年主任以外は、初任者などの若手が2名、2校目の教員が1名というような配置になることがほとんどです。配慮や指導が必要な学級は1学級までしかフォローできないと思います。
情報共有(1件)	小学校で学年担任団が5人を超えると、話し合いに時間がかかる			71	
学校行事(1件)	社会科見学などで、児童数が多すぎて見学を断られる。	72			
わからない(1件)	教育指導(1件)	教員の質や伝え方によるから	73		

※問5-2…問5-1以外の標準を上回る学級数の学校運営上の課題の自由記述回答

分類			回答	
(問5-2) 公共の交通機関での移動、宿泊施設や社会科見学での人数制限 (1件)	3学級超~4学級 (1件)	児童・生徒数 (1件)	学年100人が目安	74
(問5-2) 学校施設の不足 (1件)	4学級超~5学級 (1件)	施設 (1件)	ゆとりがなくなる	75
(問5-2) 教員が足りなく、資質の低い教員が校務を行う。(1件)	4学級超~5学級 (1件)	経験等 (1件)	24学級でもそうだったので、更に増えたら、ひどくなると思う。	76
(問5-2) 教員間の意思統一 (1件)	7学級超~8学級 (1件)	学校行事 (1件)	7学級以上になると学校行事に支障が出始めると考えるため	77
(問5-2) 学年主任の学年経営能力、学校経営の参画意識 (1件)	わからない (1件)	教育指導 (1件)	学級よりも教師力向上が重要と考えるため	78

中学校 (総件数:36件)		【2】標準を上回る学級数の学校において最も影響が出ると思う学校運営上の課題とその課題の影響が出る学級数及びその理由		
分類		回答		
子どもたちの人間関係が希薄化しやすい (1件)	8学級超～9学級 (1件)	学校経営 (1件)	8学級になると学年での掌握も影響が出る	1
教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい (4件)	6学級超～7学級 (3件)	経験等 (2件)	最大18学級を経験した過去の経験から	2
			過去の経験から判断して	3
	教員数 (1件)	必要学年教員数との兼ね合いによる	4	
	8学級超～9学級 (1件)	経験等 (1件)	18学級を経験したことがあり、24学級が限界ではないかと判断した。	5
ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい (4件)	6学級超～7学級 (3件)	教育指導 (1件)	外部人材を活用した、いわゆる「出前授業」等の企画をする場合にも、1日に対応することができなくなり、小規模校に対する不利益が顕在化するのがこの規模である。	6
		経験等 (1件)	18学級までが適正と考えるから。	7
		施設 (1件)	機器が不足している。特別教室が不足している。	8
	8学級超～9学級 (1件)	教育指導 (1件)	時間割等が組みにくくなる	9
特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい (12件)	6学級超～7学級 (5件)	経験等 (2件)	本校の現状からそう思う。但し校舎の規模や教室数にもよる。	10
			自分で経験した結果	11
		施設 (1件)	1学年6学級までなら施設として対応ができた。	12
		学校経営 (1件)	教員定数の多さや行事などの運営で負担感を感じた	13
	教育指導 (1件)	以前所属した学校で実際に時間割編制などにおいて影響が出た。	14	
	7学級超～8学級 (3件)	施設 (3件)	同じ教科の授業を同時にするようになると設備不足、場所不足になる。例えば体育では4クラスが同時に授業をするには、4カ所の授業場所が必要になるが、現実問題として校庭、体育館をシェアして使うことになる。広ければよいが、実際にはそれほど広くはないので、お互いに気を遣いながら使用することになる。	15
			7学級に8学級が一学年入っただけでプールの指導に影響があったため。	16
			実際に雨天時の体育授業に困難が生じていた。	17
	9学級超～10学級 (1件)	その他 (1件)	ほぼすべての学級で影響が出ているから。	18
	わからない (2件)	教育指導 (1件)	時間割を組む上で、どうなるかはわかりません。	19
その他 (1件)		今まで経験がないので、想像が付きません。	20	
影響は出ない (1件)	教育指導 (1件)	時間割上、同教科で3学級以上が同時刻内に授業を組まなければならないから。	21	

分類			回答	
子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい(9件)	6学級超~7学級(6件)	経験等(4件)	教員が30名を超えると、副校長としては多いなど感じます。	22
			この学級数が限界である。	23
			過去の経験から。「影響が出る」という問いなので。	24
			本校の現在がそうであるため	25
	教育指導(1件)	教科担当が一学年全てをみることができなくなる。	26	
	学校経営(1件)	教員数が40名前後、生徒数が800名前後となり管理・マネジメントが困難になりがち。	27	
	8学級超~9学級(1件)	施設(1件)	高校でも1学年10学級を上限とするところがほとんどで、それよりもクラス数が多い場合は、体育館が複数あるなど、施設面の拡充が必要となる。また、これ以上のクラス数だと災害時等に学年単位であっても肉声で指示を伝えるのが困難であると考えられるため。	28
	9学級超~10学級(1件)	学校経営(1件)	1校当たり教員が50人を超えると管理がしにくいと思う。	29
	わからない(1件)	その他(1件)	大規模校の勤務経験がないので、よくわかりません。	30
教員相互の連絡調整が図りにくい(4件)	6学級超~7学級(2件)	教育指導(1件)	現在の配置人数では、どのような学級数でも教員が不足している。	31
		情報共有(1件)	教員の情報共有が難しくなる	32
	8学級超~9学級(1件)	情報共有(1件)	他学年の教員とも頻繁に打合せをする必要がある。	33
	わからない(1件)	その他(1件)	大規模校に勤務した経験がないので影響がでる学級数についてはわからない	34
※問5-2…問5-1以外の標準を上回る学級数の学校運営上の課題の自由記述回答				
(問5-2)保護者・地域からの声に対応しきれない。	3学級超~4学級(1件)	教育指導(1件)	児童指導に専念することが難しくなるため。	35
(問5-2)その他	わからない(1件)	その他(1件)	1校あたり19学級以上の学校で勤務した経験はないので。	36

小学校 (総件数:315件)		【3】法令で定める標準(1校あたり12~18学級)を上回る学級数の学校における課題(過去に困ったことや現在困っていることなど)及び課題に対する対策や解決のアイデア	
分類		回答	
(1)子どもたちの人間関係が希薄化しやすい(40件)	教育活動の工夫(25件)	縦割りの班活動を工夫し、活動内容、実施回数等を改善した。	1
		縦割り活動などを取り入れる	2
		特別活動の充実	3
		異学年交流、学年合同授業、クラスの枠をはずしグループ編成した活動	4
		学級を超えた人間関係が希薄化しやすいので、総合的な学習の時間など合同で行う授業を増やしていく。	5
		学年合同の授業や行事の実施	6
		学年単位の学習の機会を増やしたり、学級の枠を取り払った学習の機会を増やす。	7
		意図的に子供同士が関わりをもつ教育活動を設定する。グループでの意見交流や発表など。	8
		学習の中で、友達と関わる場面を意図的に増やしていく。	9
		教育課程の編制において、意図的に関わる場を設定することで豊かな関わりをもつことはできる。	10
		子どもたち自発的な活動をうまく取り入れる。	11
		対話活動を取り入れ、友達との学び合う場を設定している。	12
		学級活動の工夫	13
		学年活動や授業の増加	14
		学年経営意識を担任間でしっかりもち、学級の垣根を越えたいろいろな取組を進める。	15
		学年行事や学年内での交流学級を設定して、活動させる。	16
		学年合同での学習活動を行う	17
		学年交流、縦割り活動、毎年クラス替えなど	18
		学年全体で行う集会や行事を充実させる。	19
		学級単位での取組とせず、学年単位で行う。移動教室などもクラスをバラして班を構成したり、目的別に子供に洗濯させたりすればよい。中学校も学年単位で動いていることが多いと聞いている。	20
		学年集会等交流機会を意図的に設ける。	21
		行事や、学年活動、または、異年齢集団活動などを計画的に行って行くことで、希薄化は防げると思う。	22
		基本は学級経営にあると考えます。その他では学年を越えた縦割り異学年の活動も効果的だと思います。	23
		学年会を行事予定に明確に設定して時間を確保し、共通理解の元指導に当たる。	24
		異学年交流や集会などの催し、遠足などで2学年合同で上学年と下学年のたてわり班を作るなど。	25
クラス替え(3件)	毎年学級編制を行うことでより多くの人関われる環境をつくる。	26	
	クラス替えのやり方を工夫する。	27	
	毎年クラス替えをして、顔見知りを増やすことぐらいしか思い浮かびません。(人間関係の希薄化の解決にはなりません、知り合いが増え友達も増えると考えます)	28	
教員の指導力の向上(3件)	児童数の課題よりも教師力に起因すると思う。	29	
	学級経営や学年経営により希薄は防げると思うので、教員の力量を上げるだけだと思う。	30	
	あまり感じない。担任次第です。	31	
ICTの活用(1件)	G Suiteを活用した協働学習の機会を増やして、仲間との学びの楽しさを味わう	32	
副担任の配置(1件)	各学年に副担任をおき、チーム学年で子どもの学校生活をみとる	33	

分類		回答	
(1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい (40件)	地域との連携 (1件)	地域のコミュにティーを活用する。	34
	その他 (6件)	本校は、現在24学級（昨年度までは26学級）で、比較的規模の大きい学校ですが、人間関係の希薄化は感じていません。授業時間数確保で、各校様々な工夫をして取り組んでいますが、たてわり活動や学校行事など、人間関係を育む教育活動がカットされたり、縮小化されていくと一挙に希薄化の傾向になると思います。学力調査では、主要教科のみが注目されますが、学校教育全体で何が大切かを、行政を含めた学校関係者が共通認識をもっておくことが、まずは大切であると考えます。	35
		子供たちの前に、教職員の人間関係の問題ではないか？	36
		一番良いのは学級数を少なくするのが良い。	37
		勤務していた学校では、全児童が名札（地区班など安全情報シール付き）を在校時は付けるやくそくにし、できるだけお互い名前を呼んで話すようにしていました。	38
		考え方では、人間関係が固まりにくいので、いろいろな人間関係に対応できる利点もあるのでは？	39
		特段感じていないが、学年全体で交流するのは難しいが、学級や学年活動の充実は大規模校でも問題はない。	40
		(2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい (39件)	学校行事の工夫 (18件)
学芸会・音楽会などでは、完全ダブルキャストにして出番を1日だけにするなどの工夫をしていました。	42		
学芸会で配役でうまく行き渡らないため、合唱祭など全員で取り組める物にする。 学習発表会にして、学習の発表機会を作る。	43		
学芸会等、一人一言を設ける	44		
学習発表会や学芸会などは学年ごとに開催し、上演時間を長くする。	45		
学年単位の行事の実施	46		
行事が同じで児童数が増えるのでやむを得ずの対策となります。集会は全校で行わず偶数学年と奇数学年で分ける。学芸会のダブルキャスト。卒業式ではスライドを用意したり、将来の夢は印刷物に替えたりする。	47		
行事でのポスト数を考えると、小規模校や中規模校に比べて物理的に難しいのは解消のしようがないのではないか。	48		
行事の開催日数を増やす。（2部制など）。全校での行事をなくし、クラス単位の授業・行事ばかりにする。	49		
行事の分散で活動機会を増やす	50		
プログラムや演目の工夫を行う	51		
一人一人の量を減らしながら、全員に役割を与える。	52		
学芸会であれば配役を増やす、運動会であれば、活躍する場面を増やすなどして、取り組む内容を吟味する。	53		
学芸会を2部構成にし、子供たちの出番を増やした。保護者にも好評だった。	54		
学校行事を精選して、見せるためのものをなくし、総合的な学習な時間とコラボした子供が主体となる学校行事に作り変える	55		
学習発表会などの出番は少ない。	56		
行事ごとに活動グループを分ける	57		
子供の役割を細分化し、1人1役とし、責任をもたせる。	58		

分類	回答		
(2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい (39件)	教育活動の工夫 (15件)	学校全体という考えを改め、半分で活動するようにする。	59
		個別の役割設定の明確化	60
		子どもが活躍できる場を多く設ける。漏れがないようにチェックする。	61
		実行委員会等を子供たちで編成し、全ての子供に活動の機会を設ける	62
		全校でなく、半分ずつ、時間をずらして実施する。	63
		特に高学年の場合には、年間を通して全員に役割分担を決めて、児童に参加意識、所属意識をもたせる工夫をする。	64
		役割を2セクション化したり、役割自体を細分化することが考えられるが同時に煩雑にもなる。	65
		グループ活動を設定し、個別の活動の場を増やしている。	66
		学級活動等特別活動を充実させることで、自主自立の力を培うことはできると考える。	67
		係児童などは、5.6年とせず6年だけにして一年間でもしっかり仕事をさせるようにする。	68
		個別というより、学校だからこそその活動、集団だからこそその活動に重きを置き、協働的な活動や作業を取り入れた教育を展開する。	69
		細かく役割分担等を行い、責任をもたせる。	70
		子供たちの発想を行事に取り入れる。 特別活動の活性化	71
		役割や代表児童は同じ児童に偏ることなく多くの児童が経験できるようにする。	72
		教師の工夫次第で解決できると考える。	73
その他 (6件)		30学級に迫る大規模校であれば、この課題は厳しいところですが、24学級の本校程度であれば、個別の活動機会の確保は可能です。一つの学校行事だけでなく、年間を通して、個々の活動が十分に行えるよう計画していくことや、逆に個にこだわるだけでなく複数での活動で効果を上げることも検討していくとよいと思います。	74
		学校を増やす。	75
		子どもたちを指導できる人員を増やす。	76
		他校の工夫を見て、まねできるところを取り入れる。	77
		企画次第だと思う。個々のねらいを立てさせるのは担任である。担任が個々の実態を十分に把握し対応していけば良いことである。	78
		具体的な場面が分からない。	79

分類	回答		
(3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい (36件)	教育活動の工夫 (21件)	児童による委員会活動を活性し、全児童が関わるようなアイデアを創出させ、日々の活動に生かした教育を推進する。	80
		1グループあたりの人数の細分化	81
		縦割りの活動に、清掃や給食の時間をたてわり班活動にする。	82
		日常的なたてわり班による活動の導入	83
		日常的な交流活動を充実させる	84
		学校全体という考えを改め、半分で活動するようにする。	85
		異学年、交流の場を年間指導計画に位置付ける。	86
		異学年間の教師次第で、異学年間の交流活動は可能だと思う。	87
		勤務していた学校では、掃除の時間を縦割りで行っていた。人間関係の希薄さを作らないためと、上級生が下級生の面倒を見ながら意識を高めるという効果があった。	88
		個々の学級対応で縦割り対応をすれば、別段難しいことではない。	89
		全校で取り組む、縦割り活動であれば問題はない	90
		朝の時間や昼休みなど、ショートの時間の交流を年間を通して積み重ねる方法もあると思います。	91
		年間を見通して、異学年交流が可能な活動を意図的に教育課程に取り入れる。	92
		異学年がほぼ同じ人数だったり学級数だったりすれば校内では問題ない。幼保特や中学校との交流時に配慮する。	93
		縦割り班の活用	94
		特別活動、教科や総合的な学習の時間を通して、学びを広げる	95
		異なる学年で活動する価値を大切に内容を工夫する。	96
		特別活動のたてわり班活動を導入したり、児童集会で意識的に異学年で交流する取組を増やしたりする。	97
		日や時間に差をもたせることで、交流活動を行うことは可能	98
		学年単位では難しいため、学校全体で班を作成し、異学年交流を行う。	99
集会活動や学校行事において異学年の交流の場を設定している。	100		
兄弟学級の設定 (9件)	兄弟学級等の工夫	活動場所を限定せず校内と外、体育館や特別教室など全て利用し年間で計画的に配置する。全ての学年でなく、135と246とか、16 25 34 といった兄弟学年をつくる。(これについては、児童数が上の学年と下の学年で違いすぎる時の方がやりにくいと思います。)	101
		兄弟学級の設定、学級間での交流を多くとる	102
		あえて、固定の兄弟クラス交流を行い、狭く深い交流を進める。	103
		兄弟学級としての取組にすると、6-1と1-1 5-2と2-2等クラス単位での工夫は可能ではないか?	104
		2つの学年がペアとなり「きょうだい学年」として活動する機会を設ける。	105
		人数が多いと特別活動としては取りにくいので、きょうだい学年を設定して、休み時間なども使って自然な交流を図るようにする。	106
		低中高の2学年単位で兄弟学級を作り、必要に応じて広げていく。	107
		縦割り班ではなくペア学年で行うと関係が密になる。	108
地域との連携 (1件)	異学年交流サポーターのような、地域ボランティアと協働する	109	
その他 (5件)		学級数が多いことと異学年交流が減ることとは、必ずしも結びつかない。	110
		正直なところ、縦割り班などの活動は難しいです。	111
		校外学習に行く場合に、移動が大変でした。	112
		時間割、教室数等の関係から難しい。	113
		場と人員を増やす。	114
		115	

分類	回答			
(4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい (40件)	情報共有 (11件)	学年会で、気になる児童の情報交換を綿密に行い、対応策も一緒に考える。	116	
		クロムブックの活用（「いいことみつけ」） 生活指導での情報共有の重視	117	
		C4thの「いいところみつけ」で共有化	118	
		学年間で教科交換授業を行うことで、教員にゆとりができる。また、児童指導上の話題がでやすくなる。	119	
		学年間や学年内の情報共有の徹底 教員の意識醸成	120	
		教員間で情報交換する時間を週1回確保する。 休み時間などに子供を見守る場所を学年ごとに分担する。	121	
		学年会等で情報交換を行うしかないが、教師も知らない児童生徒がいるので困難をきわめる。	122	
		学級数が増える分、教員の人数も増えるので、一概に目が届きにくいとは思わないが、意識して組織的に情報共有をしていく必要はある。	123	
		全員の顔写真を用意して、子供の報告をするときなど、教員全員で共有する。	124	
		全校の顔写真を全員がもち、生活指導等で話題が出た子を確認する。全員で全指児童を指導する意識をもつことが大事	125	
		担任が児童理解をしっかりと行き、報連相の時間をしっかりと設定する	126	
	サポート人材の配置 (9件)		基本小学校は担任は一人なので、規模による差はあまり感じないです。いずれにしても、支援を要する児童のサポートを中心に、人的な面で職員の数が少ないです。スクールサポートスタッフの方が入り、本校も大変助かっていますが、スクールサポートスタッフの方の複数配置も望む声が上がっています。	127
			各学年に担任をサポートできる人員を置く。（ボランティア等）	128
			補助員、支援員の常時配置	129
			SSSで教材作成や宿題丸付け等の手伝い、教育補助員を配置し学習補助をし補う。（特に算数習熟度別の下位層のクラスにつけると効果的）	130
		教員や支援員の増員	131	
		大学院生など学習ボランティアの協力や学級支援員の増員等	132	
		担任以外のサポートをする人材を入れるぐらいしか思い浮かびません	133	
		講師、地域、ボランティアの方をうまく活用して、補う。	134	
		支援員、ボランティアの活用。小学校でも学年で担当教科を入れ替え全ての学級の授業を受け持つ。	135	
副担任の配置 (9件)			学年での共通理解を図るので精一杯になることもある。それでも学年で補い合っていくことが大切。専科を学年毎の副担任にする等の人材を増やす工夫は必要。	136
		副担任制や一部教科担任制の導入	137	
		副担任制をとれる位の教員数の確保	138	
		豊富な教員数を活用し、複数担任制などを採用する。	139	
		専科の副担任制、学生ボランティアの活用等人的な支援を考えていく。	140	
		専科教員などによる副担任制（専科の学年担当をつくる）	141	
		専科教員による副担任性	142	
		専科教員を各学年の副担任にして、給食や生活指導などで関わらせる。	143	
	専科教員を副担任とし、学年や学級の活動の際に入ってもらおう。	144		

分類	回答			
(4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい (40件)	教育指導の工夫 (5件)	実践の可視化を進め、蓄積したデータの見方を勉強する。それにより、データを生かし個に応じた指導を行う	145	
		教員だけの力に頼るのではなく、児童同士の育ち合いの場や時間を確保し、互いによりよい学校生活をしていこうとする態度を児童の活動の中に組み込んでいく。	146	
		交換授業や副担任制を取り入れることによって、様々な教員の目で学年全体を見ることができる。	147	
		担任は小規模の学校と同様に目が届くと思う。大規模の場合には教科担任制にするなどして、多くの目で見るようにすると届きにくいという恐れがなくなる。要は取組次第だと考える。	148	
		担任以外の教職員がとにかく校内をまわり、声かけをする努力をしました。	149	
	教員の増員 (4件)	教員を増やすしかないと思います。	150	
		教員数を増やす。	151	
		教員数を増やす(市費負担教員など)、教科担任制で交換授業を行う。	152	
		教員、支援員等の増員	153	
	教員の連携 (2件)	教員間の協力	154	
		学年及び学年を超えた連携の強化	155	
	(5) ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい (40件)	ICT機器の拡充 (27件)	2学級が同時にできるよう配備する 使いたい時期が限られる場合があるので、市で貸し出し用の機器を用意しておく	156
			ICT機器の一層の配備 地区内の学校間での共有(共有可能な教具のみ)	157
			ICT機器の数を増やす	158
安価なパソコンの導入を考える。			159	
一校に何台ではなく、児童一人あたりの比率か、学級あたりの比率で機器を導入して下さい。			160	
一人一台が理想的。			161	
各フロアに、移動式ワゴンに2台(40台×2)設置する。			162	
学級数に応じて、端末を増やすしかない			163	
企業と連携し、一人一台の環境を貸与してもらう。(未来の消費者)			164	
機器の購入、サポート体制の充実			165	
機器の数を増やす。			166	
機器の増設。タブレットの配布拡大。学級数に伴った機器の配分。			167	
機材を増やすぐらいしか思い浮かびません			168	
教具は配当予算に依る部分が多い。学校規模、必要な教具数に見合う予算を配当であれば問題ない。			169	
最終的な解決策は、ICT機器などを一人一人に行き渡らせるよう予算配分を工夫する。また、買い取りではなく、リース契約によって一気に台数を確保する。			170	
予算を増やすしかない。			171	
2セット用意する			172	
これは行政にお願いして、学校の規模に合わせて数を増やす等改善ができるのではないか?	173			
機器の増量。	174			
児童数、学級数に見合った機器を購入するための予算の確保	175			
都の中心部の学校では全校児童に一人一台のPCがあるというが、大企業の無い町田では厳しい。しかし、一日中使っているわけでも無い。大規模校の場合には数を増やして上げるなどの措置は必要と考える。	176			
予算を増やす以外解決方法は難しい。	177			
一校40人分の配布台数を、学級規模の多い学校は増やす	178			
機器の数を揃える	179			

分類	回答		
(5) ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい(40件)	ICT機器の拡充(27件)	機器を増やす以外に思い付きません。ICT機器はできる限り教室に常備したいと思います。	180
		機器の整備	181
		現況で、PC室では、一人一人行き渡るの、教室でのグループ討議に使える教室置きのタブレットを10台ぐらい用意できるとよいのでは。実物投影機やプロジェクターをどの教室にも配置できると、見て理解が深まる。	182
	教育活動の工夫(12件)	グループごとに活用する。	183
		学年を分ける、時間割の工夫	184
		校内研修会を設定し、共通理解を深め、一人一人に触れさせる方法を考えさせる。	185
		使用割当を明確にし、それを踏まえた週の指導計画を綿密に立てる。	186
		使用予定表を掲示したり、ネット上で共有したりしてする。	187
		順番待ちになってしまうので、計画的にシフトを組んで確実にどのクラスも使用できる体制をつくる。	188
		小規模校から期間限定等で借りる	189
		ICTが得意な教員が先行実施をし、授業参観や講習階を行う。また、学年の中で教え合う。	190
		カリキュラム・マネジメントによる、教科横断的なタブレット活用の年間計画化	191
		予算の問題であるが、使用管理表を活用したり、担任同士が声をかけ合ったりすることで、十分解消できると思う。	192
		利用の可否が分かる表を作成し、共有する。	193
		計画的に学習活動を組み立て、日や時間に差をもたせることで、活動することは可能	194
施設(1件)		大規模校であれば、第2、第3のPC教室等が必要。	195

分類	回答		
(6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい(40件)	教育活動の工夫(27件)	かなりシビアな課題でした。中学校の時間割のようにきっちり固定時間割を組む必要があるため、学年合同の時間を設けることも難しいです。	196
		学級数が多ければ多いほど、専科教室や校庭、体育館等を割り当てる担当は苦慮する。臨時の割り当て入れ替えも多いため、学級数が多ければ関係のない学級まで巻き込まれて時間割変更することが多くなる。部屋が増やせない前提であれば、校庭体育は同時に3学級併用にする等分割して使う。	197
		学年で行うと、80名が限界。運動時間の確保が難しいので、同学年も分けて行う。プール該当学年が体育館・校庭も使えるようにし、交代で行えるようにする。 屋内プールにして、水泳指導の期間を延ばす。	198
		学年を分ける、時間割を工夫する	199
		広い校庭ならばよいが、狭い校庭の学校の場合には体育の時間などに支障が生じる。近くの公園や広場を優先的に学校に使わせる仕組みにすれば可能であると考え。今のようにいちいち講演などの許可を取らなければならない仕組みだと難しいと考える。何を優先させるか市としての方針も必要になってくる。	200
		校庭体育の活動内容の工夫	201
		校庭体育は、複数クラスでの使用を計画的に行う。	202
		合同授業をするぐらいしかないです。	203
		合同体育 異学年交流体育等、学年を横断した教育課程編制	204
		合同体育 合同学年集会等を取り入れる。	205
		合同体育。時間割を学期ごとに変更する。	206
		合同体育の実施など、やりくりするしかありません	207
		入れ替えのしやすい時間割設定	208
		部屋が増やせないのであれば、固定時間割と年間指導計画を照らし合わせて、できる限り支障を減らす。	209
		複数学級で合同の授業を増やすしかない。	210
		ICT機器と同様で、物理的な問題であるので、上手に調整を図れるようにするための管理表や使用が一目で分かるボードを活用するなどが有効であると思う。	211
		一人当たりが狭くなるので、子供たちを分けて展開にする	212
		活動場所を2クラスで使うなど。	213
		月並みですが、授業だけでなく、PTAや、教員が使うすべての特別教室の予定表を作り、記入して重ならないようにしている。	214
		見通しをもって計画的に割り当て、利用できるようにする	215
		使用する、使用しないを全体にはっきりわかるような掲示物をつくり、周知していく。	216
		施設利用の可否が分かる表を作成し、共有する。	217
	時間割を重層化するなど工夫する	218	
	時間割を組むことが難しい。校庭を2クラスで共有して使用したことがある。	219	
	担当を決め、日々点検、利用方法を工夫させる。	220	
	物理的な問題は起こりうる。施設の整備や計画的な運用は必要かと思う。	221	
	学期毎に、時間割をローテーションすることで、緩和することは可能	222	

分類	回答			
(6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい (40件)	施設の拡充 (7件)	校庭を2学級・3学級で使った経験がありますが、できる活動は限られてしまいます。規模を大きくする、施設を増やすことでしょうか。	223	
		施設を増やすしかない。	224	
		第2音楽室・第2図工室は全校に設置されることが臨まれる。屋上を整備し、簡単な体育程度はできるようにする。校舎を新築する場合、プールは屋内・温水とすれば、利用期間を分散できる。	225	
		第二体育館、第二校庭があると解決する。	226	
		特別教室の数を、学級規模に応じて増やしていただく。広い体育館やプールを設置する。そういった物理的な対策以外、今のところ思いつきません。	227	
		特別教室は複数、校庭、体育館は広くするしかない。	228	
		クラス数が多いということは使える教室が限られるということなので、特別教室を増やす他ないと思う。	229	
		学校外施設の活用 (2件)	本校は大規模校だが、これに一番困っている。近隣公園の活用が、対策となっている。	230
			プールは校外施設利用の導入を行う(バスで送迎を行う。残りの学年は自校プールを使う。)	231
		学校を増やす (1件)	学校数を増やす。	232
地域人材の活用 (1件)	地域人材を活用して指導補助者をつける	233		
既存施設の活用 (1件)	設置学校は、オープンスペースの活用、	234		
その他 (1件)	校庭は全校一緒に遊ぶことは不可能。一学年は体育館遊びなどを行っている。	235		
(7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントに行にくい (40件)	管理職の複数配置 (9件)	副校長を複数制にする。副校長補佐を配置する。主幹教諭を3人制にする。教委内各部署で把握できている数字等に関しては、学校に調査依頼しない等実務に携わる人数を増やす。	236	
		管理職の複数配置。	237	
		事件・事故対応に追われがちになる。管理職を増やすか、トラブル対応要員を配置するかが必要。	238	
		副校長2名配置ぐらいでしょうか。	239	
		副校長の複数配置、また主幹教諭の増員が望ましい。	240	
		副校長を増やし、分業化を図れるようにする。また、主幹教諭も増やし、連絡調整をしやすくする。	241	
		管理職や養護教諭の複数配置や補佐の配置。学年会と企画運営会を強化。	242	
		現行制度より児童数が少ない数でも副校長複数とする	243	
副校長2名配置、教務主幹の専任	244			

分類	回答		
(7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい(40件)	管理職以外の教員の活用(8件)	授業観察が年間3回行われているが、小規模の学校でさえ、各学級の授業を丸々一時間見に行く時間を生み出すことは容易なことでは無い。主幹職の増員など各校で管理職候補者などを増員すべき。管理職候補者には校長の方針などは行き届いている。	245
		主幹にある程度、マネジメントをやってもらう。	246
		主幹、主任の組織的な対応を推進する。	247
		主幹教諭、主任教諭の一層の育成と活用	248
		主任教諭、主幹教諭で力のある人材を派遣してもらう等バランスを考えていただく。	249
		主幹教諭、主任教諭の役割をより明確にする。	250
		主幹を活用する。	251
		教員については、主幹教諭、主任教諭を中心に組織を編成し活用していく。	252
サポート人材の配置(5件)		全校に副校長アシスタントの導入。副校長が児童や教職員のマネジメントに専念できるように、事務関係の仕事を依頼できるようにする。	253
		副校長の補佐を行う人材を全校に配置する。	254
		複数配置 サポートスタッフ	255
		副校長補佐の配置	256
		管理職の補佐ができる人材、職を増やす。	257
学校経営の工夫(5件)		学校支援部の充実	258
		主任会を設定し、若手教員を育成していく。役割意識を明確にしてマネジメントをしていく。	259
		職務内容を洗い出し、サポート体制をとる。	260
		組織的取組を強めること	261
		経営支援部の充実化、主幹教諭の学校運営参画を図る。	262
ICTの活用(3件)		タブレット活用によるペーパーレス会議、掲示板の活用による、全教員への周知時間の短縮。	263
		出勤簿などのICT化、自己申告書や授業観察の期間に幅をもたせる	264
		校務のICT化により、効率化、情報共有を図る	265
情報共有(3件)		学年に関しては学年主任が集約し、その情報を管理職が把握。問題がある場合は個別に話を聞き、学年にフィードバックする(学年で再度相談させる等)	266
		週の指導計画にクラスの様子や授業など振り返りを記入してもらい、管理職が状況を把握すると共に、アドバイスなど行う。	267
		教職員の人数が増えられても、管理する管理職の人数は原則変わらないので、教員同士で声をかけ合ったり、ブロックごとで話し合ったりすることで、服務管理や勤務管理は効率的に進められると思う。	268
教員の指導力の向上(2件)		管理職の能力によるところが多い。トップダウンだけでなく、ボトムアップ、ミドルアップダウンマネジメントを組織に浸透させる手腕が求められる。旧態依然としたただ指示するだけ、命令するだけの管理職、また柔軟に組織改革するだけの知識がない管理職は管理職にさせない。	269
		教員の質の向上	270
副担任の配置(1件)		副担任制の導入や、今のビルド&ビルドの仕事の仕方ではなく、スクラップ&ビルドに変えていく。	271
特別支援への対応(1件)		子供の人数が多いということは、課題を抱える子供も多いことなのでその対応に追われる。特別支援を増やすことも必要かと思う。	272
その他(3件)		それでも管理職は、与えられた環境で頑張るしかないと思っています。	273
		目一杯関わっている。余裕はないが、充実している。	274
		管理職が時間外まで頑張るしかない。	275

分類	回答			
(8) 教員相互の連絡調整が図りにくい (40件)	ICT機器の活用 (14件)	学年内では何とかなると思いますが、学校全体となると、連絡調整が付きにくいことは感じます。しかし、個々人の発進力の強化と、受信力の強化、そのためのICT機器(端末)の活用で一定の成果は上がると思います。	276	
		ICTを、コミュニケーションツールとして活用する	277	
		ICT機器の積極的活用	278	
		PCのデスクトップ上ですぐに関覧できる回覧板、掲示板を設置する。C4thの回覧板はいちいち切り替えが必要なため、かえって逆効果です。	279	
		学年を超えた校務分掌の編制、ICTを使った情報交換	280	
		校務分掌の見直しを進め、いっそうのスリム化を図っていく。機器の活用により情報の共有を図る。会議やペーパー資料を削減する。	281	
		都職・市職、正規・非常勤などさまざまな教職員を抱えるため、情報共有が非常に難しいと感じます。そのために、全教職員(80名以上)のレターボックスを設置し、職種別に配布物の配布範囲を確認した上で、紙ベースの情報を提供しました。また校務システムの掲示板を活用していました。	282	
		ICT機器の活用	283	
		連絡事項はICT機器を利用する。	284	
		C4thを活用する。	285	
		ICT機器の活用	286	
		C4thの連絡掲示板の活用。職員室に談話コーナーの設置。	287	
		電子掲示板等の活用	288	
		電子上の掲示板などを活用する。職員内のラインなども	289	
		情報共有の時間確保 (13件)	できるだけ、全員がそろって職員室で会議や打合せなどを進めることで、情報が集まりやすくなるを考える。	290
			会議の時間を減らし、学年会の時間を必ず設ける	291
			学年会の時間確保	292
			学年会の時間確保。	293
			学年会を基本として、各分掌の長が中心となり、組織的にチームで動けるようにする。	294
			学年会を密に行い、学年主任会を開催し、同学年や異学年相互の理解を図る。	295
学年間での報連相を密にすることを習慣化する以外ないのでは?	296			
共通理解や情報共有の方法を多数の方法とするしかない。	297			
連絡調整する時間を確保する。	298			
会議の精選	299			
教材費業務などは事務職が行うなど、教員の業務を減らして打合せ時間を確保する。	300			
年間行事予定の中に、学年や分掌が調整と共通理解を図れる時間を確保する。	301			
低中高、3グループに分かれての職員会議と全体とを組み合わせる。	302			

分類		回答	
(8) 教員相互の連絡調整が図りにくい (40件)	主幹・主任の活用 (7件)	主幹教諭、主任教諭としての一層の役割意識醸成	303
		主幹・主任の活用	304
		主幹会議や主任会議を設定す。教員相互の連絡調整を充実させる。	305
		学年会の充実 主任級教諭の自覚高揚	306
		主任教諭の意識改革により、学年主任としての働きをしてもらわなくてはならない。主任教諭の力量による。	307
		主幹教諭が主任教諭に指示・伝達を行われるなど、ラインで動くことを徹底し、管理職が状況確認を行う。職員朝会や夕会での連絡事項は、掲示板への書き込みや文書で周知する。	308
		主任教諭間の連絡調整を密にする。	309
	施設 (1件)	ミーティングルームなどが各階にあるといいかと思えます。	310
	その他 (5件)	教室で多くの職務にあたらせることをやめ、職員室で職務にあたらせるようにする。まず、職員室を居心地よく改革すること。常に職員が集うっていれば、自然と連絡・調整・改善・OJTなどを活発になる。	311
		その職場に在籍する人たちの努力。	312
		低中高学年ごとのブロック会の充実と、高学年の教科担任制の導入により、連携した教育環境作りを行う。	313
		まったく感じない。	314
		学年協働を中核に据えている。	315

中学校 (総件数:132件)		【4】法令で定める標準(1校あたり12~18学級)を上回る学級数の学校における課題(過去に困ったことや現在困っていることなど)及び課題に対する対策や解決のアイデア	
分類	回答		
(1)子どもたちの人間関係が希薄化しやすい(15件)	教育活動の工夫(6件)	生徒数だけの問題ではなく、関わる教員の働きかけや学校行事の準備などで、生徒自身の動きなどが作用することで、人間関係の希薄化にはならないと考える。	1
		運動会や合唱コンクールの練習で縦割りの取り組みを入れる。学年行事の充。	2
		少人数での活動の機会を増やす。	3
		各行事の中で、人間関係が深まる工夫をしていくこと。ただし、行事にかかる時間を確保しなければならない。	4
		学校行事の団体種目を増やし、個別の活動機会の均等化を確保する。学級単位の縦割り活動を増やすなどにより、人間関係の濃密化を図る。	5
		学校行事や委員会・部活動を活性化することで、人間関係深化は可能と考える。	6
	学校経営の工夫(2件)	まず、各担任が学級内の人間関係を充実させる。	7
		学級経営の充実	8
	教員の指導力の向上(1件)	学級数よりも教師の力量次第。以下設問も同じ理由。	9
	クラス替え(1件)	クラス替え時の配慮など	10
	サポート人材の配置(1件)	教育相談担当教員の重点配置	11
	その他(4件)	あまり「希薄化しやすいとはおもわない。」	12
		大規模だから希薄化しやすいというのは感じていません。	13
		特にそうは感じない。教員数による。	14
		特になし。	15
(2)学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい(12件)	学校行事の工夫(6件)	絶対数が多いので難しい。合唱祭など課題曲をなくすとか1番だけ歌うなど工夫はできるがアイデアは難しい	16
		小さな役割分担を設定し全員に参加意欲と責任感をもたせる。	17
		運動会や文化祭での最低一人一役での取組。	18
		学校規模にかかわらず、ほぼ同一のタイムスケジュールの中で行事を実施することを考えると、個々の活動場面を増やすことは難しいので、工夫としては一度に多人数が参加できる集団演技等を取り入れることぐらいしか思いつかない。	19
		団体種目を増やし、個別の活動機会の均等化を確保し、人間関係の濃密化を図る。	20
		学年実行委員とクラス実行委員を併存させ、クラス独自の取組を企画させる等して、活躍の場を複数設定する。	21
		教育活動の工夫(4件)	ある程度のグループ分けをして、その中から個別に活動の機会を設定していけばできると考える。
	グループでの活動機会をつくる。	23	
	小規模と大規模で割り当てる人数が変わるだけなので、役割や活動機会が減ることはありません。個別の活動機会が設けにくいということも感じていません。	24	
	どちらともいえないと考える。人数が多いから活躍できない人が多くなるなどは最初の企画の段階でどうにでもなることだと考える。	25	
	その他(2件)	教員一人一人、特に学年教員が多いので目を配りやすい。	26
		現時点では、時間を確保することは難しいと思われる。	27

分類	回答				
(3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい (17件)	教育活動の工夫 (12件)	みんなが同じことをするという条件で考えると、人が増えるほど動きが鈍くなり、大規模な対応が必要になる。全員で同じ体験ではなく、学級ごとの創意工夫で行えるような仕組みを考えればよい。教科の学習はどの生徒も同じことをおなじように習得できる環境作りが必要だが、そうでないものはある程度のガイドラインを作り、各学級の特性や個性に応じて活動を企画し、自主性にまかせるとよいと思う。	28		
		考え方にもよるが同学年の交流を充実させることもできる。	29		
		時間割を工夫する。	30		
		人数が大きくなり過ぎる学年単位の交流活動は困難なため、学級の縦割りの活動を意図的に増やす。	31		
		全校行事だけでなく、部活動や委員会、生徒会、ボランティア活動などを活性化することで交流の機会を増やしていく。	32		
		学年セクトの意識を無くし、学校全体行事を活かす。	33		
		行事等で工夫すれば、効果がある。	34		
		体育祭や合唱祭での縦割り練習	35		
		運動会や合唱コンクールの練習で縦割りの取り組みを入れる。	36		
		事前に計画を組めば可能だと思います。	37		
		合唱練習の見学を学級単位で異学年間で行う。	38		
		学校行事の計画において、交流活動を意識したものをたてていくことで設けることは可能だと思います。教員の意識の問題であると思います。	39		
		兄弟学級の設定 (3件)	学校行事などで兄弟学級で交流を図っている	40	
			行事等では兄弟クラスを設定し、合同練習などを取り入れる。	41	
			行事等で兄弟学級を作る等の縦割りの活動をする	42	
		教員の増員 (1件)	学年の学級数が同じなら縦割りの活動が可能だが、活動の種類を増やすだけでは、担当教員数が足りず、難しい。	43	
		その他 (1件)	いずれの活動に関しても、生徒数が多いということは、施設面や時間設定の面などから制限が多くなり、小規模校のような小回りがきかない。それぞれのケースごとに対応策を検討するしかない。一律に効果的な良い解決策は難しい。	44	
		(4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい (18件)	教員の増員 (7件)	教員の人数を増やす。	45
				教員の配置数の変更。複数の支援員の配置	46
非常勤教職員も含め、教職員数を増やす。	47				
教員の定数を増やすことに尽きますが、毎日または定期的な情報交換が必要になります。そのためには、部活動や委員会活動がない曜日を設定するなど、放課後の時間を確実に生み出すことが不可欠だと考えます。	48				
教員の配置人数を増やせば解決できる可能性がある。	49				
教員を増やすことにつきます。	50				
担当教員数を増やす。	51				
情報共有 (4件)	担任・副担任の数も多いので、多くの情報を集約するため学年会をこまめに開く。		52		
	中核となる教員同志が連携し、情報共有の場を作り上げる。		53		
	教員の意識の問題であると思います。生徒理解の重要性を学校全体で理解するように、関係の分掌や校内委員会が中心となって発信していく。		54		
	目標、目的を明確にし共通理解をして指導に当たればある程度は達成できると考える。		55		
少人数学級 (2件)	30人学級にし、教員数を増やす。	56			
	35人学級の実現。	57			
複数担任制 (1件)	豊富な教員数を活用し、複数担任制などを採用する。	58			

分類		回答	
(4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい (18件)	その他 (4件)	人数が増えるのに合わせて教員数も増えるので、目が届きにくくきめ細かな指導をしにくいということはないです。	59
		教員の人数による	60
		生徒数に応じて教員数も増えるので、教員が組織的に動ける体制作りができれば、大規模校が不利ということはないと思う。	61
		学級数が多いぶん、教員も増員されており、学年の意思疎通も図られるべきで目が届かないということはないと思います。	62
(5) ICT機器などの授業で使用する教員を一人一人に行き渡らせにくい (16件)	ICT機器の拡充 (9件)	200人規模でも800人規模でも配布される機器の台数が同じという現状では、難しい。 規模に応じて配布する台数を変える。	63
		ICT機器や教室を増やすしかないのでは。	64
		いかなる学校規模でもPC室は1室、PCは40台というような考えでは、大規模校は極めて不利である。ICT環境の整備において生徒数を勘案することが必要であると考え。	65
		タブレットを生徒数用意する。	66
		生徒数学級数に応じて機器を増やす	67
		台数を増やしてもらえないと思います。	68
		台数を増やす	69
		大規模校だと、パソコン室の使用が重なる可能性が高い。したがって、ICT機器を増やすことが必要である。	70
		どんな規模であっても、ICT機器が生徒数ないと解決は難しいと思う。	71
		教育活動の工夫 (3件)	
コンピュータ室の利用について混雑はする。時間割の工夫により解消可能だと思われる。	73		
時間割の工夫	74		
教具の拡充 (1件)		教具の数を増やす。	75
その他 (3件)		機器の貸し出しなど効率よく運用していくことを専門にする部署を設けることです。	76
		レンタルの活用と予算化	77
		予算の問題が関係してくる。	78

分類	回答		
(6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい (16件)	施設の拡充 (6件)	本校のプールは、通年授業を行えるため、年間学習指導計画を工夫することで、ある程度は解決できると思う。しかし、体育館やグラウンドの使用については、時間割が組みにくいなどが想定される。また逆に、本校は特別教室の数が限られ、こちらの方が課題解決は困難である。教室を増築しないと厳しい。	79
		施設を増やすか広げるしかないのでは。	80
		時間割編成時に配慮しているが大変な作業である。増築する、改築する、生徒数を減らすなどの対策を講じる。	81
		特別教室の数や体育館の広さ、校庭の広さが不足するからです。体育館であれば中学校なら正規のバスケットボールコートが余裕を持って1面作れる位の広さが欲しいと思います。	82
		それなりの広さは必要。経験した学校は、施設的に充分だった。	83
		学級数に応じた特別教室数、校庭や体育館、プールの広さの確保	84
	教育活動の工夫 (5件)	教育課程を組む際に、横断的、計画的に利用計画を立てる。もっと大規模であることが多い高校がどのように時間割を組んでいるのかなどを参考にする。	85
		小規模校でも1つ、800人を越えるような大規模校でも1つという施設等のあり方に課題がある。しかし、現実的には仕方がないので、稼働率が3~4倍になるものを上手にマネジメントしているのが現状である。この「上手にマネジメント」が工夫である。	86
		学校全体で計画的に実施する。	87
		カリキュラムマネジメントの視点で考えることが大切である。	88
		人数が多いと施設の振り分けに制約が生じる。学年ごとに時間をずらすなどの対応をしていく。	89
		学校外施設の活用 (2件)	物理的に施設を増設や拡充は無理なので、代替施設の利用などの対応が必要です。
	周辺施設を活用する。		91
	その他 (3件)		現状の規模にあった生徒数にする。
複数学級同時利用などで対応したが難しいと思われる。			93
(7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントが行いにくい (20件)	管理職の複数配置 (9件)	物理的に不足するわけなので、適正規模に変更するしかないと思う。	94
		現行は27クラス以上で副校長が2人配置であるが、21クラス以上などと変更し2人体制にするとよいと思います。	95
		大規模校における市費等を活用した副校長複数配置。	96
		特に教員の数が課題である。例えば業績評価を考えても一人で40人を越える教員の評価を行うなど、一般企業等でもあり得ない作業であると考え。副校長の2名配置の基準の引き下げが必要である。	97
		副校長2名配置	98
		副校長や主幹教諭を小規模校より多く配置する。副校長補佐などを活用する。	99
		副校長を2人体制にする。	100

分類	回答		
(7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい(20件)	管理職の複数配置(9件)	複数の副校長の配置、主幹教諭の確保	101
		管理職を増やす。	102
		管理職として、日々教員の様子を見て声をかけるようにする。大規模校は事務作業の量がそれだけ増えるが、予定を確認しながら進めている。が、複数配置であると業務負担が減り、生徒や教員のマネジメントが行いやすくなる。	103
	学校経営の工夫(7件)	学校経営企画部の導入	104
		教員の人数が多いとマネジメントをしにくいのは事実である。ただ工夫次第である程度改善できると考える。	105
		管理職同士の連携、主任との連携を密にする。	106
		授業の充実を柱として全校体制で取り組む。(めあて・まとめ・予告)	107
		特に学級数が多いと、中学校の場合は1つの学年で1つの学校といえるほど自己完結できるようになり、他学年の先生の力を借りなくてもいろいろな行事など運営できてしまいます。普段から人の交流を多くするようなマネジメントをしていく必要があると思います。	108
		事務的なことは、ICT機器等で解決すると思うが、各教員のメンタル面も含めて、丁寧に対応するのが難しい	109
		管理職による頻繁なコミュニケーションが肝心。	110
	管理職以外の教員の活用(2件)	より組織的な経営はもちろん、主幹教諭の役割の一層の徹底を図る。	111
		主幹教諭を活用する。	112
	その他(2件)	絶対数が多く文書の量や提出物の量が増えるので間違いのないように対応する必要がある。	113
		特になし	114
(8) 教員相互の連絡調整が図りにくい(18件)	ICT機器の活用(8件)	ICTを積極的に活用する。一堂に会する会議をオンライン上で行うなど、場所の移動の必要性も減らす。	115
		ICTの利用。掲示板などでの連絡	116
		ICT等による連絡の合理化	117
		ITの活用などの工夫が考えられる。	118
		ICTを活用して、関係者が集まらなくても時間と場所の確保は可能です。	119
		C4thの活用	120
		ICTを活用した教員相互の情報交換	121
		C4thの連絡掲示板の積極的な活用により、意思疎通を図る	122
	情報共有(7件)	運営、支援委員会、生徒指導、教務部会の毎週実施(時間割内への位置付け)	123
		職員会議と学年会議の隔週の実施(水曜日)	
会議時間を設定する。		124	
人数が多いと急な会議が必要な時に全員が揃いにくいことはあるかもしれないが、普段から声をあげて情報共有する意識があれば、連絡調整はうまくいくと考える。		125	
こまめに教科部会や学年会を開く。		126	
管理職同士の連携、主任との連携、教員同士の連携を密にする。		127	
休憩時間、放課後の隙間時間を活用し情報交換を行う。		128	
学年規模が大きいので、どうしても自学年に目が向き、他学年の動向に対する関心が希薄になりやすい。回覧・職員会議にて情報を共有している。	129		
主幹・主任の活用(2件)	主幹教諭の確保	130	
	主幹、主任教諭などへの働きかけも重要。	131	
学校経営の工夫(1件)	現状なら連絡調整を専門とする担当者を設置するしかありません。また、ICT機器をもっと活用し、伝言板や電子会議室のような機能をもっともっと生かすことです。さらには都立高校のように事務職員を多くし、庶務的な仕事を教員から切り離し、教育活動に必要な連絡調整、打合せに割ける時間を生み出すことです。	132	

小学校 (総件数:32件)	【5】問5-1に掲げる課題以外の法令で定める標準（1校あたり12～18学級）を上回る学級数の学校における課題（過去に困ったことや現在困っていることなど）及び課題に対する対策や解決のアイデア		
分類	課題	対策	
学校行事 (10件)	校外学習の受け入れ先が限られる。 (昼食場所の確保も大変)	2回に分けて実施する。(学年としてのまとまりがなくなる。日程調整が困難になる。などの不都合も生じるのですが…。)	1
	学芸会での配役 卒業式の長時間化	—	2
	学校行事や学年合同の活動で小回りが効きにくい。計画をかなり前から、綿密に立てることに加え、変更時の対応も変更可能性を予測した上で策定することになり非常に煩雑。	企画・立案・手続の専門員（旅行業者の添乗員のような人）を配置する。	3
	学年の児童数が150人以上だと、校外学習等で電車も一度に乗れない場合があった。	実際は2グループに分かれて移動するしかなかった。	4
	公共の交通機関での移動、宿泊施設や社会科見学での人数制限、	—	5
	校外学習で公共交通機関を使うことが困難。路線バスの借り上げも今は対応してくれない会社が多く、観光バスを利用しなければならない。(料金が安い)	—	6
	校庭は2クラスで使うなど。学芸会を行うにしても台本探しは、内容と同程度に出演人数が多いものや、台詞を増やせそうなものが鍵になってしまう。	—	7
	社会科見学等、見学先の受け入れ上限人数をオーバーし、別の見学先を開拓しなくてはいけない。または、2グループに分かれて見学に行かなくてはいけなくなる。	2グループに分かれて、午前午後で見学先を入れ替える。見学の時期をずらす。	8
	集団下校時、児童数が多くなり安全確保が難しい。	保護者がポイントに立って児童の安全を見守る環境作りが必要	9
	学級数が多いと、校外学習で困ることがあった。○見学場所の確保 ○昼食場所の確保 ○移動手段	特にない。大人数の条件に合うものを探す。	10
教育指導 (6件)	1学年の担任の数が多くなればなるほど、学年での情報共有・共通理解は難しい。	—	11
	なぜ標準があるのかを考えると、18学級以上の規模になれば教育の質が心配になるのは当然のことではないかと考えます。	—	12
	学年主任の学年経営能力、学校経営の参画意識	管理職との頻繁なコミュニケーション	13
	管理職とすると、通知表を見る、授業観察・面談の数が多くて大変。	—	14
	時間割編成	—	15
	他学年のことはあまり関知していないこと。そのため、系統性などが薄くなることがある。	学習の系統性などを校内で学習指導計画をしっかりと確立させ、主幹や管理職が管理しておくことが必要。	16

分類	課題	対策	
施設 (5件)	学校施設の不足	大型化に対応した施設設備の建設	17
	教室不足。ちょっとした学年集会等を行うスペースがない。	特になし。	18
	空き教室がなくなり（少なくなり）、多目的室、ランチルーム等の多様な学習活動を行う部屋がなくなる。	—	19
	職員会議や連絡会で職員が一同に会する場所がなかったり、広すぎて打ち合わせにならない。	会議室の充実	20
	物的環境や人的環境を整える。	学習ボランティアや地域力を活用する。	21
人間関係 (4件)	トラブルが起きる確率が必然的に上がる点	1クラスあたりの児童数減やサポート的人員の配置	22
	家庭の様子や地域での家庭間の繋がりがなどが、見えにくい。	地域との連携を密にして、地域からの情報を活用する。	23
	児童が多ければ、トラブル等も増える。一つ一つ丁寧に対応したいが、保護者にとっては丁寧に対応して貰ってないと感じる場合がある。	日頃のコミュニケーションを大切にする。（難しいが）	24
	生活指導のトラブル対応が多い。	生活指導担当教員が、いるとよい。	25
その他 (7件)	35年前の経験なので、上記の課題以外は思いつきません。	—	26
	学区域の見直し	—	27
	教員が足りなく、資質の低い教員が校務を行う。	教員の給料を上げて、雇用の質を上げる。	28
	教員の質の確保が困難。	—	29
	授業観察、自己申告面接が終わらない。事故事件苦情対応に追われがちになる。	管理職の増員	30
	保護者・地域からの声に対応しきれない。	住民間の関係の希薄さを解消するために、橋渡し役を担う。	31
	特になし	—	32

【6】問5-1に掲げる課題以外の法令で定める標準（1校あたり12～18学級）を上回る学級数の学校における課題（過去に困ったことや現在困っていることなど）及び課題に対する対策や解決のアイデア			
分類	課題	対策	
中学校 (総件数:14件) 施設 (5件)	ICT環境の整備や施設、設備の面で、学校規模にかかわらず、一律で措置したものについて、大規模校の生徒はその恩恵を享受する量が小規模校の生徒に比べて低いことを設置者としてどのように考えるのかお尋ねしたい。	—	1
	グラウンドや校舎が狭い。	市が近隣の土地を買って敷地を広げて欲しい。	2
	教職員室の広さの不足及び教室の不足	増築しかないと考えます。	3
	少人数授業の教室確保	—	4
	人数が多いと校舎が狭くなる。ひとりあたりの専有面積で学校の校舎の規模を算出していると思いますが、学校は時間で物事が進んでいくので、人の動きもみんな同じ時間で動きます。そうすると階段や廊下など一度に動く人の数が多いので狭く感じます。それで、廊下や校庭での衝突事故が多いような気がしていません。もう50cm階段が広ければというようなことがあります。	—	5
学校行事 (5件)	学級数が多いため、修学旅行の移動や教科（家庭分野の保育実習）等、時間がかかったり、できなかった。	—	6
	校外学習や宿泊行事において、受け入れ可能な箇所が限られたり、全体への指示が通りにくい。	グループを二つに分け、A→B、B→Aという行程で行動する。行動をクラス単位を多くする等。	7
	修学旅行や移動教室の実施の際の生徒の動きについて考慮すべきことが多かった。	—	8
	体育祭において各生徒の出番が少なくなる	多くの生徒が一同に出られる種目を多めにする。	9
	入学式、卒業式に全校生徒が参加できない。	卒業式は見送りで全校生徒が参加する機会を設けている。 入学式の翌日に、生徒会入会式として全校生徒が一同に会す機会を設けている。	10
教育指導 (1件)	教員間の意思統一	互いの良さを認め合い、適材適所の対応	11
その他 (3件)	生徒数が増えると安全確保（生活安全・交通安全・災害安全）が難しくなります。	それぞれ専門科に相談できるとありがたいと思います。	12
	特になし	学年間の連携が強かった	13
	特になし	—	14

小学校 (総件数:78件)		【7】今後の町田市立小学校における適正規模となる1学年あたり学級数の範囲 (上限)	
分類		回答	
3学級 ※1 校あたり 18学級 (58件)	施設 (15件)	施設が充実していれば4学級以上でもよいが、市内の平均的な施設では4学級以上となると手狭になるため。	1
		学校施設設備の現状から	2
		各校の教室数が18学級を目処に作られているため。	3
		児童の交流や教員の連携、敷地などハード面においても現在の様子を鑑みて、最も適していると考えから。	4
		同じ施設を単独で使えるようにするため	5
		問6-3で回答したとおり 特別教室や体育館等の一週間の利用を割り振った固定時間割は、18学級でもほぼ限界であるため。	6
		6-3のように体育の校庭の利用などを考えると適正。 ただし、今後の児童の減少も考えると4学級も視野に入れて検討する必要があるかも知れない。	7
		空間・学年として、動きやすい。	8
		特別教室なども増やすのであれば、教室の数を減らすしかないから。	9
		施設の現状等から市内の学校では2~3学級程度の学校が適当と思われる。	10
		特別教室が週に1回使用できなくなるため。	11
		専科教室、校庭、体育館、プールなど、施設利用の機会が少なくなることで、教育の充実に支障がでる可能性があるため。	12
		校庭や体育館、特別教室をある程度不便無く使用できる。	13
		4学級になると、校内施設の利用に支障が出ることに加えて、社会科見学等の校外学習の際の受け入れ先が限られ、児童の学習にも制限が増えるので、3学級までが理想的。	14
		施設面で影響がなく、子供たちの人間関係を築くことができるから	15
	学校経営 (14件)	新規採用教員が増加し、若手教員ばかりの学年となることも懸念される。一学年3学級であれば教職員集団の構成上、バランスが保てると考える。	16
	担任間の意思疎通が図りやすい。	17	
	学校まとめり(学校力)や児童把握面から18学級がやりやすい。	18	
	問6-3と同じ 1学年が4クラスを超えてしまう(5学級以上)規模になると、相当力のある学年主任でないと統括できなくなり、同一学年でありながら統一されていない指導になりがちである。それは、子供の荒れにつながり、保護者の不信につながる。 管理職の立場から言っても、学級数が増えれば増えるほど、教職員に目が届かなくなり指示が徹底しなくなりがちなのは事実。24学級が同じベクトルで指導ができる程度だろうと思う。 この質問は普通学級だけだが、学校には特別支援の学級もあり、管理職のマネジメントはトータルでの教職員数と密接な関係があることは承知しておいてほしいと思った。	19	
	目が届くから。教員間の連絡も取りやすい。	20	
	教員側から見ると、話し合いやすくチームワークが取れやすい	21	
	18学級を下回ると職員の負担が大きくなり20学級を上回ると、活動が制限される。	22	
	問5に挙げられていた問題点は、18学級程度の規模であれば児童の面、職員の間、マネジメントの面からも問題とはならないと思われるため。	23	
	ある程度活気があり、色々なアイデアもあるが、管理職として掌握しやすい。	24	

分類		回答	
3学級 ※1校あたり18学級 (58件)	学校経営 (14件)	4学級以上になると、学年間の連携が極端に希薄になる。学校の処理能力を超える。	25
		児童の管理・教職員の管理などがスムーズに進められる規模の上限であると考えています。	26
		学校経営の基盤となる学年経営が把握できると思います。	27
		2人より3人の方が、学年経営がしやすい。	28
		学年でも活動しやすく、教職員の配置数においても、組織的にまとまりやすい。	29
	教育指導 (13件)	2学級だととなりとの比較となるが、3学級なら多少違う活動になっても比較にはならないのでよい	30
		4学級以上は、時間割の変更がかなり難しい。	31
		時間割を組む上で、余裕を残して編制できる。	32
		1学年100人程度の児童数が学年での活動で適正であるから。	33
		きめ細やかな指導をする限界の学級数だと思います。	34
		子ども1人1人に目が届くから。	35
		学習環境・教材の準備等、児童の学び環境を考えるとこうなる。	36
		児童数学年100人前後、教員も学年3人くらいだと連携もとりやすいから。	37
		現代の児童は生活面でも学習面でもきめ細かい指導が必要だから	38
		問6-3に同じく、「学年担任で協力して学年の児童を育てる」には、100人ぐらいが把握する限界かなと経験上感じるからです。	39
		「より良い教育環境」を強調するのであれば、少ない方がよい。	40
		きめ細かな指導がしやすい。	41
		1学年は100人以下が適正だと思う。	42
	活動 (6件)	校外学習の移動、行事の円滑な運営 教員が全校の子供たちを知る、等から今24クラス（一学年4クラス）でなんとかやっているが、3クラスのほうがより良くできそうだから。	43
		動きやすい学級数だと思う。	44
		クラス編制の適正、時間割作成や交通機関、行事との兼ね合い、学年会や打ち合わせのし易さ等	45
		4学級以上になると、学年で話し合いをする時間等も長くなり、円滑な学年運営が行いにくくなる。また、学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくくなる。	46
		4学級の連携は難しく 行事等の融通も効かないことが多い	47
		行事や活動実施、学年経営において適切な数であると思う。	48
	人間関係 (4件)	教師間の意思疎通もとれることまた、クラス替えのときに児童の特性を考慮することができること。	49
		6年間の児童の人間関係を考慮して、学級編成で対応できると思うから。	50
		クラス替えによる子供たちの人減関係	51
		児童の学級編制の都合上、人間関係を考慮すると最適だと考えたから	52
	経験等 (3件)	現任校が落ち着いている。	53
		経験による	54
		経験より	55
その他 (3件)	各学級40人で編成した際にも特に課題は見当たらないのではないかな。	56	
	統廃合した場合広域になりすぎる	57	
	町田市の人人口統計の推移から児童数の減少が想像できるから	58	

分類		回答	
4学級 ※1校あたり24学級 (18件)	施設 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室等を利用した教育活動の時間割編成が困難になる。 ・学年、学校全体を把握することや児童理解、きめ細やかな指導が行き渡らない。 ・校外学習（社会科見学等）の受け入れ先が限られ、2回に分けて実施することもある。 <p>ただし、あくまでも上限であり、3学級（18学級）以下が望ましいと思う。</p>	59
		学級数×授業時数で、部屋（各目的に対する部屋が一つである場合）の確保がぎりぎりできる値。ただし、特別な部屋の確保が可能な場合はこの限りではなく、むしろマネジメントの問題の方が課題になってくるだろう。そう考えたときも、やはり24学級を上限としていただくとありがたい。	60
		やはり、施設面で対応できる上限と思います。	61
		学校運営上、既存の校庭、体育館、プールの使用に支障のない人数	62
		校庭や体育館に全員を一度に集めた場合の収容数の限界	63
		5学級を越えると、特別教室や体育館の割当等に支障が出始めるため。	64
	教育指導 (4件)	3～4学級ならば、学校運営、教育活動に支障をきたすことは、少なくなるのではないかと思うため	65
		学年主任が見られる限界。	66
		学年としてまとまりをもって教育活動を行うことができるのは、4学級までと考える。	67
		3～4学級だと、クラス分けや活動のさせ方など、色々と工夫ができそうである。	68
	活動 (4件)	24学級までであれば、教育活動に大きな支障はありません。学校に活気も生まれます。	69
		学年、学校行事等の運営上バランスがよいと考えるため	70
		上限として4学級。校外学習などの機動性にも関係してくる。	71
		むしろ24学級までなら活気があってよいと思う。	72
学校経営 (2件)	<p>6-3の回答と一緒にです。</p> <p>1学年が4クラスを超えてしまう（5学級以上）規模になると、相当力のある学年主任でないと統括できなくなり、同一学年でありながら統一されていない指導になりがちである。それは、子供の荒れにつながり、保護者の不信につながる。</p> <p>管理職の立場から言っても、学級数が増えれば増えるほど、教職員に目が届かなくなり指示が徹底しなくなりがちなのは事実。24学級が同じベクトルで指導ができる限度だろうと思う。</p> <p>この質問は普通学級だけだが、学校には特別支援の学級もあり、管理職のマネジメントはトータルでの教職員数と密接な関係があることは承知しておいてほしいと思った。</p>	73	
	3学級を基本的な上限とし、学年によっては4学級もやむなしといったところか。5学級の経験はないが、若い教員が多い中、学校課題や学級の状況が把握しやすく適正規模とは到底いえないだろう。	74	
	その他 (1件)	4学級程度までであれば支障ないと考えるから	75
経験等 (1件)	過去の経験から、そのように思われる。	76	
5学級 ※1校あたり30学級 (2件)	施設 (1件)	校庭が広ければ、5クラスまでなら連携をとれた経験があるので。	77
	教育指導 (1件)	時間割編成にゆとりができ、教育活動を展開しやすい	78

中学校 (総件数:36件)		【8】今後の町田市立中学校における適正規模となる1学年あたり学級数の範囲 (上限)	
分類		回答	
5学級 ※1 校あたり 15学級 (14件)	教育指導 (5件)	15学級であれば、教員の配置が比較的容易であろうと考える	1
		1校で15学級であれば、技術科、家庭科なども全て1名の専任教員を採用することができる。また、災害時などにも肉声で指示を伝える限界が1学年あたり200名程度であると考えられるため。	2
		学年教員数は最低必要数10人と考える	3
		教科担当が一学年全部をみる限界クラス数だと思う	4
		全校生徒数で600人までが掌握しやすい人数の上限ではないかと思う。5学級であれば最少人数だと483人なのでさらに安全管理もしやすい。	5
	経験等 (5件)	これまでの経験から、学校行事などの取組が活発となる人数ではないかと考える。そして、学級編制を考える時に、人間関係が濃すぎる状態にならず、丁度良いのではないかとと思われる。	6
		これまでの経験から5学級を越えると困難さを感じる場面が急増する。	7
		過去の経験から	8
		過去の経験から判断して	9
		今まで経験した学級数がこの数字であるため。	10
	施設 (2件)	現在の教員配置人数ではベストだと考えているが、少人数教育を行うための教室があってという条件つきである。	11
		鶴川中学校の施設の状況から判断しました。	12
	活動 (2件)	生徒の活動に活気がもてて、教職員の状況把握もやりやすい。	13
		4学級でもいいのだが、5学級くらいの方が活気があると思った。	14
4学級 ※1 校あたり 12学級 (12件)	教育指導 (6件)	少人数授業展開や体育授業など偶数クラスの方が展開しやすく時間割編制もしやすい。また教職員が学年の生徒を把握しやすく目が行き届きやすいと考える	15
		1学年4クラスだと、全教科(技術科も家庭科もいる)、5教科の先生も揃うので、安定した授業が展開できる。	16
		偶数学級数で生徒の状況を把握しやすいから	17
		生徒の氏名を教員が覚えられる限界数ではないかと思うから	18
		学級経営の充実が図られる	19
		中学校ですと教員の教科に対する配置のバランスがよく、4クラス規模ですと生徒にとっても競争意識が働く適度な刺激になる。	20
	施設 (2件)	少人数指導や特別支援教室、特別支援学級等の実施を踏まえ、各校の現況施設にあっていと思う。	21
		管理職のマネジメント及び施設設備の許容から考えると12学級が上限である。	22
	活動 (2件)	少人数クラス展開、修学旅行等の宿泊的行事は4学級の方がやりやすかったです。	23
		集団として切磋琢磨するのにほどよい規模と考える	24
	経験等 (2件)	特に明確な理由はないが、これまでの勤務経験から諸教育活動の充実と学校の活気等のバランスが良いのが4学級程度と考える。	25
今までの経験上、生徒数や教員数とも適正のように思われる。		26	

分類		回答	
6学級 ※1校あたり18学級 (8件)	活動 (3件)	活気があり、教員も係わりやすい	27
		学校行事への支障が懸念される	28
		学年行事、学校行事を行う上で適切である。	29
	教育指導 (1件)	教科指導が学年の教員が中心となり進められる。	30
	その他 (4件)	学年6学級学校18学級がバランス面を考えると、適当であると考える。	31
		理想が4学級なので、幅をもたせた偶数学級は6学級	32
		6学級が適正範囲と考える	33
自分の経験がないため、18学級までを適正と考えるから。		34	
8学級 ※1校あたり24学級 (2件)	教育指導 (2件)	ここまでなら何とか対応できるから。少人数授業の展開を考えると偶数クラスがよい。24クラスなら教員数は37。少人数加配で39。1学年13名。学年経営上、これが上限ギリギリ。少ないと部活顧問の持ち手が不足する。	35
		担任と副担任の関係から、教員一人に対する生徒数の割合がやや少なくなるから。	36

参考資料

町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査） 質問紙

校長・副校長のみなさまのご意見をお聞かせください

町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査） 質問紙

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会（以下「審議会」）は、町田市教育委員会から児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするために「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」を答申するよう諮問を受けました。

その諮問を受けて2019年8月27日に開催した第1回審議会では、2019年6月に実施した「町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査結果」について事務局から報告を受け、審議会で意見交換を行いました。

その中で、調査項目の一つであった「1学年あたりの望ましい学級数※」について意見交換をした際に、町田市立学校には学級数の多い学校が存在しており、適正規模（適正な学級数の範囲）を議論するうえでは、学級数の多い学校における課題や、その課題に対してどのような対策が必要かについて現場の声を追加で調査する必要があるため、補充調査を実施することにいたしました。

※「1学年あたりの望ましい学級数」などの調査結果の要旨については、7ページをご覧ください。

そこで、町田市立小・中学校の校長・副校長を対象に、学級数の多い学校の運営上の課題とその対応策について補充調査を実施することにいたしました。調査はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2019年9月

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会

■回答いただくうえでの注意点

- ② 回答は、校長及び副校長がお答えください。
- ② 回答は、Web フォームから回答する方式になりますので、10月1日(火)までにWeb フォームから回答ください。
- ③ Web フォームへのアクセス方法及び回答方法については、別紙「町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査） Web フォーム回答方法」を参照ください。
- ④ 回答に迷う場合には、回答者の考えにできるだけ近いものをお選びください。
- ⑤ アンケートに関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

町田市教育委員会教育総務課総務係
担当：鈴木、中野
電話：042-724-2172

あなた（回答者）について

問 1：あなたが勤務している学校の校種を選択してください。

【小学校・中学校】を選択

--Web フォーム上では、問 1 で回答した校種に応じて、問 2 以降の設問内容が異なります。--

問 2：あなたが勤務している学校名を選択してください。

【学校名】を選択

問 3：あなたの役職等を選択してください。

【校長・副校長】を選択

問 4：通常学級が法令で定める標準（1 校あたり 12～18 学級）を上回る学級数の学校で、これまで教員として勤務した経験はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

- (1) 1 校あたり 19 学級～24 学級^{*1}の「小学校」で勤務した経験がある
- (2) 1 校あたり 25 学級～30 学級^{*2}の「小学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める大規模校)
- (3) 1 校あたり 30 学級超^{*3}の「小学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める過大規模校)
- (4) 1 校あたり 19 学級～24 学級^{*1}の「中学校」で勤務した経験がある
- (5) 1 校あたり 25 学級～30 学級^{*2}の「中学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める大規模校)
- (6) 1 校あたり 30 学級超^{*3}の「中学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める過大規模校)
- (7) 1 校あたり 19 学級以上の学校で勤務した経験はない

※1:小学校…1 学年あたり平均 3 学級超、中学校…1 学年あたり平均 6 学級超

※2:小学校…1 学年あたり平均 4 学級超～5 学級、中学校…1 学年あたり平均 8 学級超～10 学級

※3:小学校…1 学年あたり平均 5 学級超、中学校…1 学年あたり平均 10 学級超

標準を上回る学級数の学校における課題と必要な対策について

問5-1：法令で定める標準（1 校あたり 12～18 学級）を上回る学級数の学校における課題（過去に困ったことや現在困っていることなど）について、あなたの考えにあてはまるものを選択してください。

また、差し支えなければ、下記の課題に対する対策や解決のアイデアについて回答欄にご入力ください。

課題		評価				
		5	4	3	2	1
(1)	子どもたちの人間関係が希薄化しやすい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(2)	学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					

(3)	異学年間の教育・交流活動を設けにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(4)	教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(5)	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(6)	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(7)	子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(8)	教員相互の連絡調整が図りにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					

問5-2：問5-1に掲げる課題以外に、法令で定める標準（1校あたり12～18学級）を上回る学級数の学校における課題（過去に困ったことや現在困っていることなど）がある場合には、その内容を自由記述欄にご入力ください。

また、差し支えなければその課題に対応するための対策や解決のアイデアについてありましたら、併せてご入力ください。

【問5-1以外の課題】（過去に困ったことや現在困っていることなど）

【回答欄に入力】

【問5-2で入力した課題に対応するための対策や解決のアイデア】

【回答欄に入力】

標準を上回る学級数の学校において最も影響が出ると思った課題とその学級数について

問1で「小学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問6-1（小学校）：問5で掲げた課題のうち、学校運営上最も影響の大きいと思ったものを、お答えください。（1つ選択）

- (1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい
- (2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい
- (3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい
- (4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい
- (6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい
- (7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい
- (8) 教員相互の連絡調整が図りにくい
- (9) 問5-2で回答した課題

問6-2（小学校）：問6-1で回答した課題について、どれくらいの学級数から影響が出ると思いますか。

1 学年あたりの学級数でお答えください。（1つ選択）

- (1) 3学級超～4学級 ※1校あたり19学級～24学級
- (2) 4学級超～5学級 ※1校あたり25学級～30学級
- (3) 5学級超 ※1校あたり30学級超
- (4) わからない
- (5) 影響は出ない
- (6) その他 ※回答欄にご入力ください

問6-3（小学校）：問6-2で回答した学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。

（回答必須）

【回答欄に入力】

問 1 で「中学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問6-1 (中学校) : 問5で掲げた課題のうち、学校運営上最も影響の大きいと思ったものを、お答えください。(1つ選択)

- (1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい
- (2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい
- (3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい
- (4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい
- (6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい
- (7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい
- (8) 教員相互の連絡調整が図りにくい
- (9) 問5-2で回答した課題

問6-2 (中学校) : 問6-1で回答した課題について、どれくらいの学級数から影響が出るとお考えですか。

1 学年あたりの学級数でお答えください。(1つ選択)

- (1) 6学級超～7学級 ※1校あたり19学級～21学級
- (2) 7学級超～8学級 ※1校あたり22学級～24学級
- (3) 8学級超～9学級 ※1校あたり25学級～27学級
- (4) 9学級超～10学級 ※1校あたり28学級～30学級
- (5) 10学級超 ※1校あたり30学級超
- (6) わからない
- (7) 影響は出ない
- (8) その他 ※回答欄にご入力ください

問6-3 (中学校) : 問6-2で回答した学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。

(回答必須)

【回答欄に入力】

適正規模となる学級数の範囲について

学校統廃合を含めた通学区域の見直しの議論を行った結果、学校統廃合を実施する場合には、統合先の学校施設の老朽化の状況に応じて建て替えを検討することになります。

2019年度の審議会では、子どもたちがより良い教育環境で学ぶことができるようにするために必要となる「適正規模の学級数」を、少子化と学校施設の老朽化が進行している状況を踏まえて、将来にわたって維持するために必要な「適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）」を議論いたします。

そのうえで、2020年度の審議会において、学校施設に必要な施設の規模（教室数など）や機能を検討する必要があることから、下記の質問をします。

問1で「小学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問7-1（小学校）：今後の町田市立小学校において、「適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）」は、何学級までだと思いますか。（1つ選択）

※アンケート調査でお聞きした「小学校の1学年あたりの望ましい学級数」の調査結果は、7ページの「2 アンケート調査結果（要旨）」をご覧ください。

- (1) 3学級 ※1校あたり 18学級
- (2) 4学級 ※1校あたり 24学級
- (3) 5学級 ※1校あたり 30学級

問7-2（小学校）：その学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。（回答必須）

【回答欄に入力】

問1で「中学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問7-1（中学校）：今後の町田市立中学校において、「適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）」は、何学級までだと思いますか。（1つ選択）

※アンケート調査でお聞きした「中学校の1学年あたりの望ましい学級数」の調査結果は、7ページの「2 アンケート調査結果（要旨）」をご覧ください。

- (1) 4学級 ※1校あたり 12学級
- (2) 5学級 ※1校あたり 15学級
- (3) 6学級 ※1校あたり 18学級
- (4) 7学級 ※1校あたり 21学級
- (5) 8学級 ※1校あたり 24学級
- (6) 9学級 ※1校あたり 27学級
- (7) 10学級 ※1校あたり 30学級

問7-2（中学校）：その学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。（回答必須）

【回答欄に入力】

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※9月27日（金）までにWebフォームで入力して回答をお願いします。

(参考1) 町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査結果について

1 アンケート調査概要

調査名	町田市立小・中学校の 教育環境に関するアンケート（保護者・教員）		町田市立小・中学校の 地域における役割に関する アンケート（市民）
調査期間	6月19日～7月5日		6月19日～7月9日
調査対象	児童・生徒の保護者	教員	20歳以上の市民
	小学校6年生、中学校3年生 ※各校1学級 +特別支援在籍児童・生徒	校長、副校長、学年主任 (小学6年、中学3年) 特別支援担当教員	無作為抽出
調査対象者数	2,166人 うち小学校 1,453人 うち中学校 713人	217人 うち小学校 147人 うち中学校 70人	3,000人
回答者数 (回答率)	1,700人(78.5%) うち小学校 1,111人 (76.5%) うち中学校 589人 (82.6%)	181人(83.4%) うち小学校 119人 (81.0%) うち中学校 62人 (88.6%)	1,159人(38.6%)

2 アンケート調査結果（要旨）

設問内容	回答者	1位	2位	3位				
1学年あたりの望ましい学級数	小学校 保護者	3学級	(65.0%)	2学級	(17.4%)	4学級	(12.9%)	
		教員	(78.2%)		(16.8%)		(2.5%)	
	中学校 保護者	4学級	(30.7%)	5学級	(27.7%)	3学級	(23.9%)	
		教員	(66.1%)		(17.7%)		(14.5%)	
	許容できる片道の 通学時間	小学校 保護者	30分程度	(48.9%)	15分程度	(47.3%)	45分程度	(1.4%)
			教員	(48.7%)		(47.9%)		(3.4%)
中学校 保護者			(68.3%)		(20.3%)		(6.0%)	
		教員	(83.9%)		(9.7%)		(6.5%)	
学校施設の建て替え (改築)の考え方	保護者	地域ごとに建て替える 学校を決めて、重点 的に投資して建て替 える	(55.3%)	建て替えは行わず、市民の負担 が増えない範囲で、改修できる 箇所だけ改修する(20.8%)	市民の負担が増えても、すべて の学校を建て替える (13.6%)			
	教員		(60.2%)	市民の負担が増えても、すべて の学校を建て替える(23.2%)	建て替えは行わず、市民の負担 が増えない範囲で、改修できる 箇所だけ改修する(11.0%)			
	市民		(61.7%)	建て替えは行わず、市民の負担 が増えない範囲で、改修できる 箇所だけ改修する(18.6%)	市民の負担が増えても、すべて の学校を建て替える(8.6%)			
学校統廃合を含め た通学区域の見直 しを検討するうえ で、必要な配慮 (自由記述)	保護者	報告書参照						
	教員	保護者回答：P111～P164（総件数808件） 回答者数の47.5%						
	市民	教員回答：P165～P171（総件数144件） 回答者数の79.6%						
		市民回答：P172～P215（総件数668件） 回答者数の57.6%						

※すべての調査結果及び自由記述の内容については「町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 報告書」をご参照ください（8ページでご案内している拠点共有フォルダに掲載しています）。

※町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 報告書は、拠点共有フォルダの下記の場所に掲載しています。

拠点共有フォルダ>教育委員会>002 マニュアル>16 適正規模・適正配置
>01_アンケート調査>01_町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査
>03_【報告書】町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 報告書

(参考2) 第1回 審議会の開催結果について

(1) 審議会への諮問

町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について

教育委員会から審議会に対して、町田市教育目標である「夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる」の実現を基本的視点として、町田市立学校のより良い教育環境を整備し、充実した学校教育を実現するために必要となる適正な学級数及びその学級数を実現するうえでの通学距離・通学時間や学校の位置などの学校配置の基本的な考え方を定める上記事項について答申するよう諮問を受けました。

(2) 主な審議内容

①1998年の答申内容及びその後の環境変化の確認

適正規模・適正配置の検討に必要な現状と課題を共有するために必要な下記の内容について、事務局から説明を受けました。

- ア 1998年に審議会が出した答申内容
- イ 1998年答申後の学校教育を取り巻く環境変化
- ウ 2019年6月に実施したアンケート調査結果

②現状と課題の意見交換

事務局からの説明後、審議会委員同士で適正規模・適正配置に関する現状と課題について、各審議会委員の問題意識や考え方について意見交換を行いました。その結果、下記の内容について審議会委員の認識が一致していることを確認しました。

(認識が一致した事項)

- ア アンケート調査結果を尊重した議論を行うこと
- イ 将来にわたって子どもたちの教育環境を充実させるためには学校統廃合の議論が必要であること

※第1回審議会の配布資料は、拠点共有フォルダの下記の場所に掲載しています。

拠点共有フォルダ>教育委員会>002 マニュアル>16 適正規模・適正配置
>02_審議会資料>01_第1回

町田市立学校の適正規模・適正配置に関する
アンケート調査（補充調査）報告書
2019年（令和元年）10月発行

- 【発行】 〒194-8520
町田市森野 2-2-22
町田市教育委員会学校教育部教育総務課
電話 042-722-3111（代表）
- 【編集】 町田市立学校適正規模・適正配置等審議会
- 【集計】 株式会社 ファインコラボレート研究所
〒107-0051
東京都港区元赤坂一丁目1番15号 ニュートヨビル
電話 03-5775-3720
- 【刊行物番号】 19-49

〔庁内印刷〕